

調査・事例報告

## 木曾町における観光客の動向に関する調査研究(V)

眞次 宏典・葛西 和廣・成 耆政・  
横山 満・樋口 剛志・鈴木 尚通

Study on activities of visitors to Kiso district based on a survey in 2015

MATSUGU Hironori, KASAI Kazuhiro, SUNG Kijung,  
YOKOYAMA Mitsuru, HIGUCHI Takeshi, SUZUKI Naomichi

## 要 旨

2015年10月3日木曾福島地区、日義木曾駒高原道の駅、および開田高原アイスクリーム工房前、道の駅木曾福島(木曾市場)の4地点で観光客対象のアンケート調査を実施した。この調査は、木曾町役場の協力を得て、松本大学総合経営学部の学生および松商学園高等学校商業科の生徒が参加して行ったものである。2014年9月の御嶽山噴火の影響もあり、サンプル数は若干少なくなったが、「御嶽山噴火」後の木曾地域の観光動向について、何らかの変化が生じているか否かを検討した。

## キーワード

木曾 観光客 旅行 御嶽山

## 目 次

- I. 序
- II. 調査結果の分析
  - 1. 来訪者の年齢層
  - 2. 旅行日程と主な立ち寄り先
  - 3. 現在地における滞留時間と同伴者
  - 4. 主な交通手段と旅行ルート
  - 5. 現在地への来訪回数と来訪目的
  - 6. 訪れた場所、またはこれから訪れる予定の場所
  - 7. 情報収集の方法と求める地域情報
  - 8. 旅行予算とお土産代
  - 9. お土産として購入したものと購入したいもの
  - 10. おいしかったもの
  - 11. 木曾路の印象
  - 12. 木曾町に対する意見
- III. 結
- 文献

## I. 序

木曾町における観光客に対するアンケート調査は2010年から2012年までの3年間は、10月下旬に木曾福島地区、日義木曾駒高原道の駅、および開田高原アイスクリーム工房前で行ってきた<sup>1)、2)、3)、4)</sup>。今回は松商学園高等学校商業科の生徒と松本大学総合経営学部の学生が合同して調査を行う都合により、木曾町役場と調整した上で、時期を7月に変更した。そして、新たに道の駅木曾福島（木曾市場）を調査地点に加えた。

調査活動は2015年10月3日（土）の11時頃から15時頃まで、木曾福島地区（足湯、代官屋敷）、道の駅日義木曾駒高原ささりんどう館前（以下道の駅日義）、木曾市場、および開田高原アイスクリーム工房前で行った。当日の天気は晴れで、気温は福島地区では、21.3℃（11時）から24.3℃（13時）、開田高原では16.5℃（11時）から19.5℃（13時）であった。

アンケートの回答者（以下では、来訪者と略記）は、木曾福島地区では27人（足湯25人、代官屋敷2人）、道の駅日義では64人、木曾市場では61人、開田高原アイスクリーム工房前では57人、合計209人であった。その性別は、男性123人（58.9%）、女性77人（36.8%）、未記入9人（4.3%）であった。来訪者の居住県は、長野県74人、愛知県74人、岐阜県27人、静岡県3人、その他都道府県31人であった。

長野県内からの来訪者74人中56人に居住市町村の記入があった。その内訳は、塩尻市9人、伊那市8人、諏訪市5人、松本市5人、安曇野市4人、岡谷市3人、木曾町3人、大桑村2人、木祖村2人、駒ヶ根市2人、中野市2人、南木曾町2人、以下は各1人で、青木村、飯田市、上田市、高遠町、茅野市、長野市、

南箕輪村、宮田村、山形村であった。

その他都道府県からの来訪者31人の内訳は、神奈川県4人、東京都4人、三重県4人、大阪府3人、千葉県3人、新潟県2人、北海道2人、山梨県2人、以下は各1人で、京都府、滋賀県、静岡県、栃木県、富山県、奈良県、兵庫県であった。

以下では、209票の回答を長野県内（74人）、愛知県他隣県の3県（愛知県74人、岐阜県27人、静岡県3人、合計104人）とその他都道府県（31人）の3つの居住地域に分けて集計した結果を分析する。なお、今回の調査では長野県に隣接する愛知県と岐阜県は回答者が多く、これと同じく木曾町が含まれる長野県南信地域に隣接する静岡県を合わせて、以下においては「愛知県他隣県」と呼称することとする。そして、最後に今回の調査によってわかったこと等について検討する。

## II. 調査結果の分析

来訪者の性別は、長野県内では計74人のうち、男性32人（43.2%）、女性38人（51.4%）、未記入4人（5.4%）、愛知県他隣県では計104人のうち、男性68人（65.4%）、女性32人（30.8%）、未記入4人（3.8%）、その他の都道府県では計31人のうち、男性23人（74.2%）、女性7人（22.6%）、未記入1人（3.2%）であった。なお、以下では、グラフ内の表記として、長野県内来訪者を「長野」、愛知県他隣県来訪者を「愛知他」、その他都道府県来訪者を「その他」と表記することとする。

アンケート調査地点ごとの来訪者の割合を図1に示す。長野県（長野）からの来訪者は、道の駅日義48.6%（36人）、木曾市場17.6%（13人）、17.6%（13

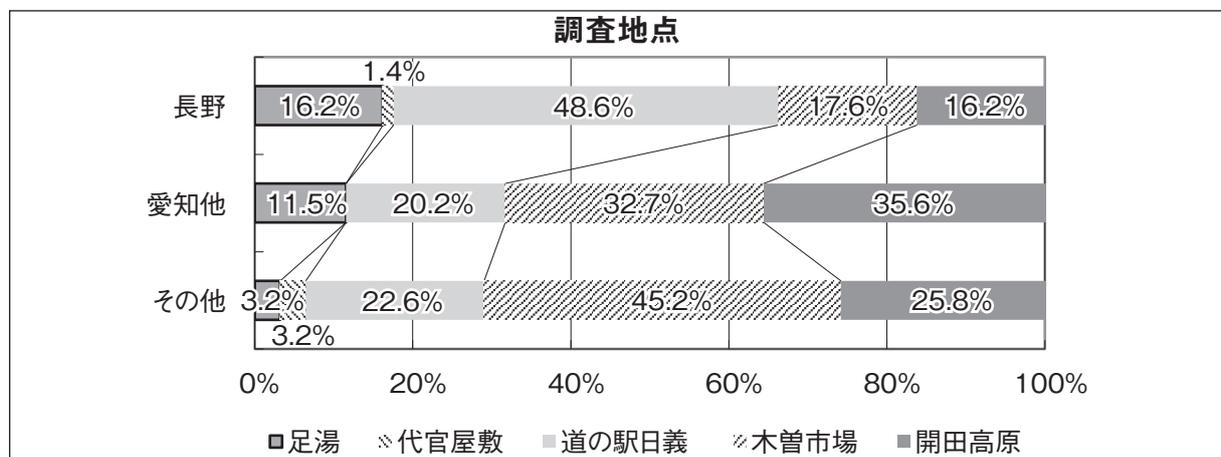


図1. 来訪者の調査地点の割合

人) (足湯12人、代官屋敷1人)、開田高原16.2% (12人) の順であった。愛知県他隣県(愛知)からの来訪者は、開田高原35.6% (37人)、木曾市場32.7% (34人)、道の駅日義20.2% (21人)、木曾福島地区11.5% (12人) (足湯12人、代官屋敷0人) の順であった。その他都道府県(その他)は、木曾市場45.2% (14人)、開田高原25.8% (8人)、道の駅日義22.6% (7人)、木曾福島地区6.4% (2人) (足湯1人、代官屋敷1人) の順であった。

来訪者の居住地と調査地点との関連について見ると、長野県内からの来訪者の場合道の駅日義で調査を受けた人の比率が高いと言える。これは愛知県他隣県およびその他都道府県からの来訪者の場合に道の駅日義が占める割合が約20%であることと比較して、倍以上の数値を示している。愛知県他隣県からの来訪者の場合、開田高原が一番多く、少し下がって木曾市場が続いている。その他都道府県からの来訪者の場合は木曾市場の比率が一番高い。

### 1. 来訪者の年齢層

図2において来訪者の年齢層別の集計結果を示す。長野県内からの来訪者は、60歳代20.3% (15人)、40歳代18.9% (14人)、30歳代と50歳代で17.6% (13人)、70歳代16.2% (12人) の順であった。愛知県他隣県からの来訪者は、50歳代と60歳代がともに22.1% (23人)、70歳代14.4% (15人)、40歳代13.5% (14人)、30歳代12.5% (13人)、20歳代11.5% (12人) の順であった。その他都道府県からの来訪者では、60歳代48.4% (15人)、40歳代で16.1% (5人)、20歳代と50歳代がともに12.9% (4人) の順であった。

若年層に注目してみると40歳未満の割合は、長野県24.3% (18人)、愛知県他隣県25.9% (27人)、その他都道府県16.1% (5人) と、地元の長野県と愛知県他隣県からの来訪者がその他都道府県からの来訪者よりも8ポイントから10ポイント比率が高くなっている。一方50歳以上の来訪者は、長野県54.1% (40人)、愛知県他隣県58.7% (61人)、その他の都道府県51.6% (16人) と、愛知県他隣県が他の居住地域よりも5ポイントから7ポイント高くなっている。

### 2. 旅行日程と主な立ち寄り先

来訪者の旅行日程を図3に示す。長野県からの来訪者は、日帰り87.8% (65人)、1泊2日4.1% (3人) の順であった。愛知県他隣県からの来訪者は、日帰り82.7% (86人)、1泊2日11.5% (12人)、2泊3日4.8% (5人) の順であった。その他都道府県からの来訪者は、日帰り41.9% (13人)、1泊2日35.5% (11人)、2泊3日12.9% (4人)、3泊4日以上9.7% (3人) の順であった。

宿泊を伴う来訪者は、その他都道府県58.1% (18人)、愛知県他隣県16.3% (17人)、長野県内4.10% (3人) で、木曾地域から居住地が遠くなるにつれて宿泊をする比率が高くなり、宿泊数も多くなる。

2泊以上の来訪者を単純集計した結果は、2011年10月の調査では6.6% (15人/227人)<sup>2)</sup>、2012年10月の調査では5.8% (9人/155人)<sup>3)</sup>、2014年7月20日の調査では24.1% (60人/249人)<sup>4)</sup>であったが、今回の2015年10月の調査では5.7% (12人/209人) と2011、2012年秋の調査とほとんど変わらない。2014年7月20日の調査結果では、前後3回の秋の調

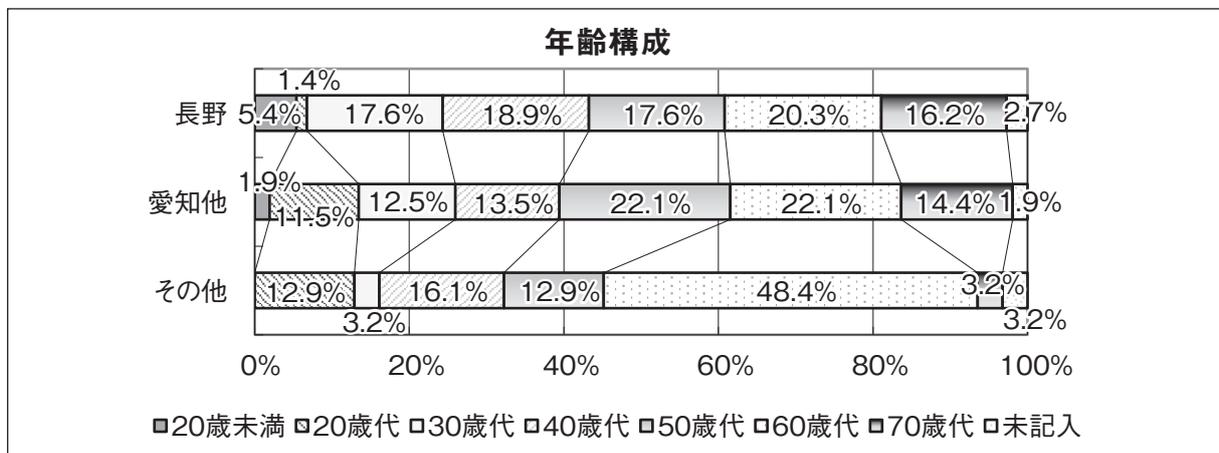


図2. 来訪者の年齢層

査結果よりも17%以上増加している。これは、調査した時期の違い（2011、2012年は10月下旬、2014年は7月下旬、今回2015年10月上旬）による可能性が高いと思われる。

愛知県他隣県からの来訪者で宿泊を伴う日程の人は、2011年10月47.8%（45人/94人）、2012年10月46.3%（25人/54人）、2014年7月54.5%（61人/112人）であったから、過去の10月の調査と比較すると、2015年10月は30ポイントも落ち込んでいる。一方、其他都道府県からの来訪者は、2011年10月73.1%（38人/52人）、2012年10月86.5%（32人/37人）、2014年7月81.8%（63人/77人）であったから、過去の10月の調査と比較すると、2015年10月は10ポイント以上落ち込んでいる。2014年9月御嶽山噴火の影響が、長野県外からの来訪者の宿泊比率の減少に現れているようだ。

宿泊を伴う来訪者を対象に旅行日程の何日目か

を尋ねた結果を図4に示す。長野県内からの来訪者（3人）はいずれも1泊2日の旅行日程で、1日目66.7%（2人）、未記入33.3%（1人）であった。次に、愛知県他隣県からの来訪者（17人）は、1日目23.5%（4人）、2日目23.5%（4人）、3日目5.9%（1人）、未記入47.1%（8人）であった。1日目と2日目の8人の旅行日程はいずれも1泊2日で、3日目の1人の旅行日程は2泊3日であった。そして、其他都道府県からの来訪者（18人）は、1日目38.9%（7人）、2日目22.2%（4人）、4日目以上11.1%（2人）、未記入27.8%（5人）であった。1泊2日の旅行日程の人（11人）の中では、1日目6人、2日目1人、未記入4人であった。2泊3日の予定の人（4人）の中では、1日目1人、2日目2人、未記入1人であった。

このように見ると、宿泊を伴う旅行をしている来訪者のうち、其他の都道府県からの来訪者では木曾地域を1日目の訪問地として選択する比率が、

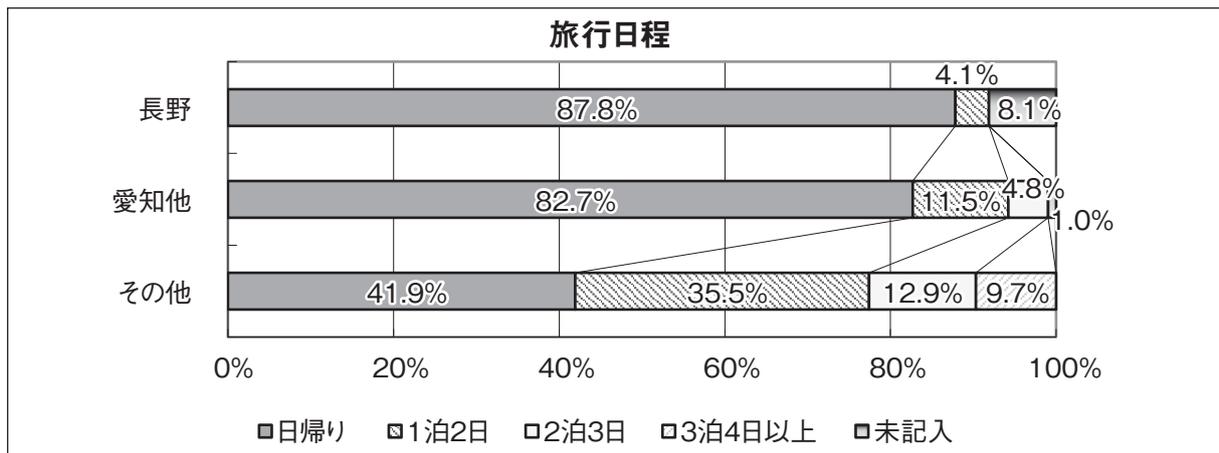


図3. 来訪者の旅行日程

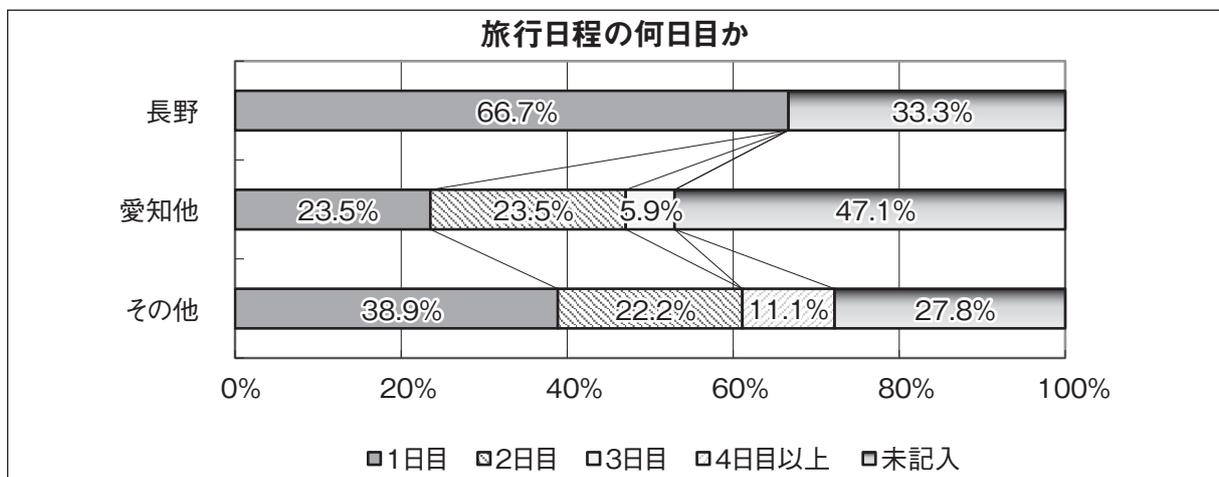


図4. 旅行日程の何日目か

愛知県他隣県からの来訪者よりも高いことがわかる。

1泊目の宿泊地に対する回答を図5に示す。長野県内からの来訪者(3人)は木曾町66.7%(2人)、木曾町以外33.3%(1人)であった。愛知県他隣県からの来訪者(17人)は、木曾町17.6%(3人)、木曾町以外47.1%(8人)、未記入35.3%(6人)であった。その他都道府県からの来訪者(18人)は、木曾町16.7%(3人)、木曾町以外33.3%(6人)、未記入50.0%(19人)であった。

愛知県他隣県からの来訪者、その他都道府県からの来訪者のいずれも1泊目は木曾町よりも木曾町以外に宿泊する比率が10ポイント以上高くなっている。2012年と2014年の調査では、愛知県他隣県からの来訪者、その他都道府県からの来訪者のいずれも木曾町に宿泊する比率の方が木曾町以外に

宿泊する比率よりも高かった。ここでも御嶽山噴火の影響が現れている可能性がある。

長野県からの来訪者で主な立ち寄り先を記述した人は11人であった。その一覧を表1aに示す。表内の「きのご祭り」は、同日(10月3日)に木曾町で行われた「木曾駒高原きのごまつり」のことである。

愛知県他隣県からの来訪者で、主な立ち寄り先を記述した人は23人だった。その概要を表1bに示す。その他都道府県からの来訪者で主な立ち寄り先を記入した人は10人だった。その概要を表1cに示す。

以下、各表中の丸印(○)は調査当日を表す。

### 3. 現在地における滞留時間と同伴者

来訪者の調査地点付近(木曾福島地区、木曾市場、開田高原および道の駅日義)における滞留(予

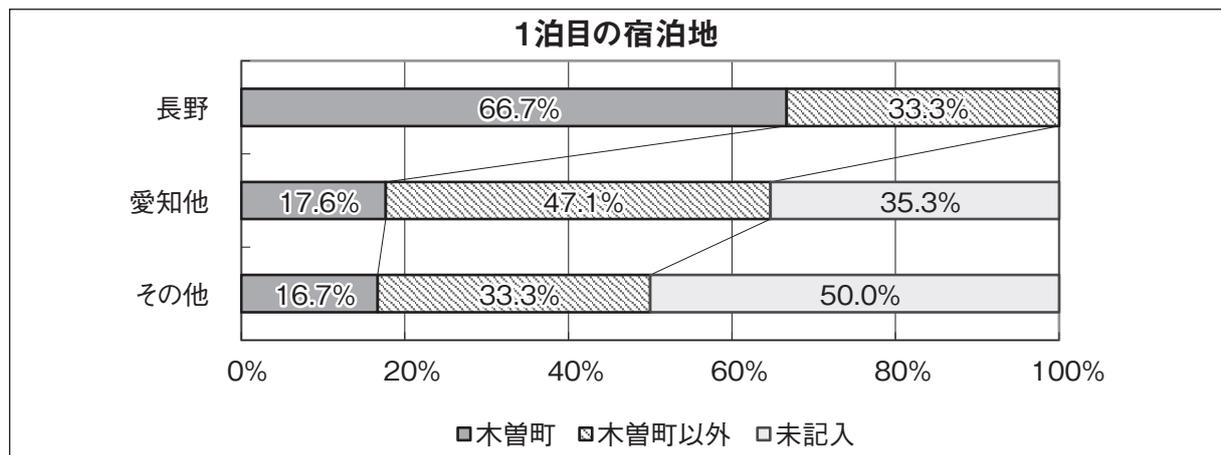


図5. 1泊目の宿泊地

表1a. 長野県からの来訪者の主な立ち寄り先

年齢	日程	1日目	2日目	旅行相手	交通手段
50歳代	日帰り	きのご祭		夫婦	マイカー
40歳代	日帰り	きのご祭		夫婦	マイカー
70歳代	日帰り	そば祭 [ママ]		夫婦	マイカー
60歳代	日帰り	キノコ採り		夫婦	マイカー
70歳代	日帰り	きのご祭		夫婦	マイカー
60歳代	日帰り	きのご祭		夫婦	マイカー
70歳代	日帰り	御嶽山		知人友人	マイカー
70歳代	日帰り	開田高原		夫婦	マイカー
30歳代	1泊2日	上松町	諏訪湖	家族(子連れ)	マイカー
50歳代	日帰り	木曾駒高原		夫婦	マイカー
40歳代	日帰り	開田高原		家族(子連れ)	マイカー

表1b. 愛知県他隣県からの来訪者の主な立ち寄り先

年齢	日程	1日目	2日目	同伴者	交通手段
50歳代	日帰り	ツーリング		単独	バイク
60歳代	日帰り	千畳敷		夫婦	マイカー
50歳代	日帰り	伊那		夫婦	マイカー
70歳代	日帰り	きのご祭り		家族(大人のみ)	マイカー
70歳代	1泊2日	高山		知人友人	マイカー
50歳代	日帰り	開田高原		夫婦	マイカー
70歳代	日帰り	木曾福島～開田		夫婦	マイカー
30歳代	1泊2日	○開田高原	温泉、小坂町	家族(子連れ)	マイカー
60歳代	日帰り	開田高原		夫婦	マイカー
50歳代	1泊2日	○開田高原	下呂温泉	夫婦	マイカー
60歳代	日帰り	木曾町		知人友人	マイカー
50歳代	日帰り	開田高原、きのご祭り		知人友人	マイカー
60歳代	日帰り	木曾駒高原		知人友人	マイカー
70歳代	1泊2日	○木曾福島	開田高原	知人友人	マイカー
70歳代	2泊3日	木曾CC	木曾CC	夫婦	マイカー
30歳代	日帰り	木曾福島		家族(大人のみ)	マイカー
50歳代	日帰り	開田高原		知人友人	バイク
30歳代	日帰り	塩尻		カップル(未婚)	マイカー
40歳代	1泊2日	キノコ	乗鞍(奈川宿泊)	知人友人	マイカー
70歳代	日帰り	御嶽		ツアー団体	観光バス
60歳代	1泊2日	木曾駒カントリー	○奈良井宿	家族(大人のみ)	マイカー
20歳代	日帰り	温泉		知人友人	マイカー
20歳代	日帰り	温泉		知人友人	マイカー

表1c. その他都道府県からの来訪者の主な立ち寄り先

年齢	日程	1日目	2日目	3日目	4日目	同伴者	交通手段
40歳代	3泊4日以上	上の段	開田高原			その他	その他
50歳代	2泊3日	ドライブ	○アイスと ワイナリー	たき火		知人友人	マイカー
40歳代	1泊2日	木曾町				家族(大人のみ)	バイク
20歳代	2泊3日	移動(高山泊)	開田高原 (高山泊)			カップル(未婚)	マイカー
70歳代	3泊4日以上	福島地区	福島地区	福島地区	開田高原	単独	鉄道(JR)
40歳代	2泊3日	犬山泊	○諏訪泊			家族(子連れ)	マイカー
60歳代	1泊2日	松本泊				夫婦	マイカー
50歳代	日帰り	木曾-松本-上越				家族(大人のみ)	マイカー
20歳代	2泊3日	○木曾 (裏ゴ泊)	飯田 (下栗泊)	遠山郷		家族(子連れ)	マイカー
50歳代	1泊2日	岐阜長良川				夫婦	マイカー

定) 時間を図6に示す。

滞留時間が1時間未満の来訪者は、長野県内58.1% (43人/74人)、愛知県他隣県51.0% (53人/104人)、その他都道府県54.8% (17人/31人)であった。滞留時間が2時間以上の来訪者は、長野県内27.0% (20人)、愛知県他隣県25.0% (26人)、その他都道府県9.7% (3人)であった。

滞留時間を全体 (209人の単純集計) でみると、比率の高い方から、30分未満 (32.5%、68人)、1時間未満 (21.5%、45人)、1時間以上2時間未満 (18.7%、39人)、2時間以上3時間未満 (8.6%、18人)、4時間以上 (8.1%、17人)、3時間以上4時間未満 (6.7%、14人) の順であった。

来訪者の同伴者は全体 (単純集計) では、比率の高い方から順に、夫婦 (34.9%、73人)、家族 (子

連れ) (22.0%、46人)、知人友人 (18.2%、38人)、家族 (大人のみのみ) (13.4%、28人)、単独 (7.2%、15人)、カップル (未婚) (2.4%、5人)、職場団体 (1.0%、2人)、ツアー団体とその他がともに (0.5%、1人) であった。滞留時間については、その他都道府県からの来訪者では30分未満と1時間以上2時間未満が多いのが他の2カテゴリーと比べて目立つ。その理由については今回の調査では判断としなかった。

居住地別に見てみると、(図7参照)、長野県内からの来訪者の同伴者は、夫婦37.8% (28人) と最も多く、家族 (子連れ) 25.7% (19人)、友人知人21.6% (16人)、家族 (大人のみのみ) 8.1% (6人)、単独5.4% (4人)、カップル (未婚) が1.4% (1人) の順であった。

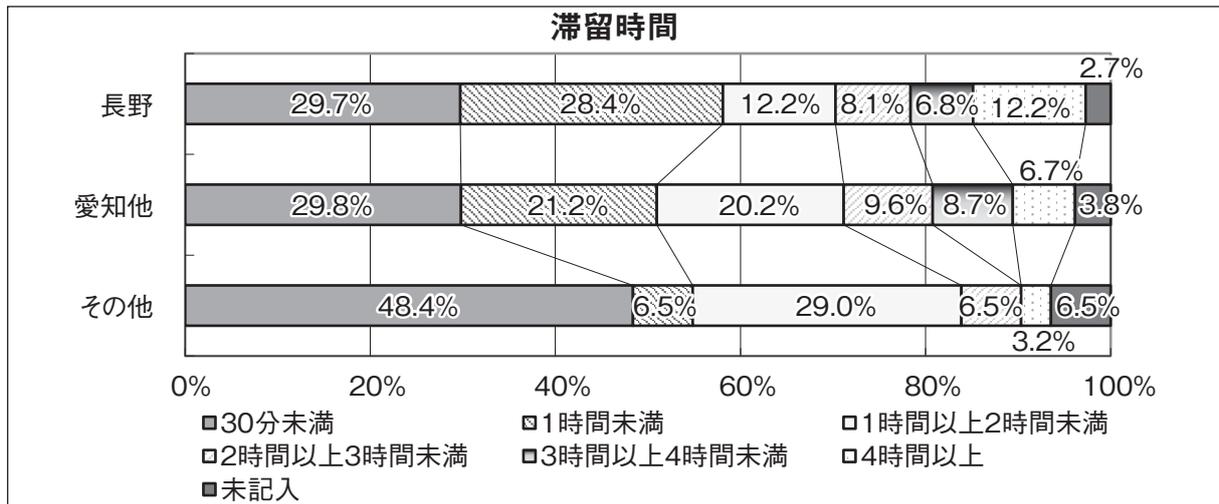


図6. 来訪者の滞在時間

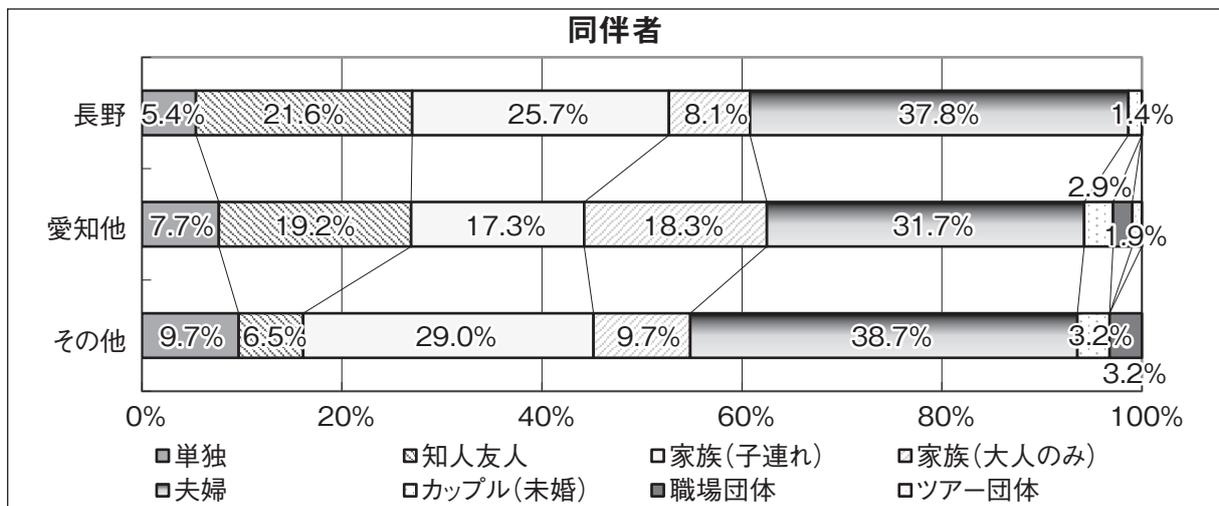


図7. 来訪者の同伴者

愛知県他隣県からの来訪者の同伴者は、夫婦31.7%（33人）、知人友人19.2%（20人）、家族（大人のみ）18.3%（19人）、家族（子連れ）17.3%（18人）、単独が7.7%（8人）、カップル（未婚）2.9%（3人）、職場団体1.9%（2人）、ツアー団体1.0%（1人）の順であった。

その他都道府県からの来訪者の同伴者は、夫婦38.7%（12人）、家族（子連れ）29.0%（9人）、家族（大人のみ）と単独がともに9.7%（3人）、友人知人が6.5%（2人）、カップル（未婚）とその他がともに3.2%（1人）の順であった。

なお、同伴者の「その他」に対する具体的な記述はなかった。

#### 4. 主な交通手段と旅行ルート

来訪者の主な交通手段を単純集計（209人）すると、マイカー（88.0%、184人）、バイク（4.3%、9人）、鉄道（JR）（3.8%、8人）、その他（1.9%、4人）、自転車と観光バスがともに（0.5%、1人）の順で、未記入は（1.0%、2人）であった。

図8に示した居住地別に見ると、長野県内からの来訪者はマイカーが87.8%（65人）と最も多く、鉄道（JR）5.4%（4人）、その他（徒歩）4.1%（3人）、自転車1.4%（1人）の順であった。

愛知県他隣県からの来訪者は、マイカー89.4%

（93人）、バイク7.7%（8人）、鉄道（JR）と観光バスがともに1.0%（1人）の順であった。

その他都道府県からの来訪者は、マイカー83.9%（26人）、鉄道（JR）9.7%（3人）、バイク3.2%（1人）の順であった。

今回の調査では、観光バスによる来訪者は1人であった。ほぼ全員がマイカー利用者であったと言える。

なお、マイカーと答えた全体（184人）を調査地点別（表2参照）で見ると、道の駅日義31.5%（58人）、木曾市場30.4%（56人）、開田高原28.3%（52人）、木曾町福島地区9.8%（18人）の順であった。

木曾地域への旅行ルート（往路）を図9に示す。長野県内からの来訪者は「塩尻方面から」が47.3%（35人）と最も多く、「伊那方面から」が28.4%（21人）、「中津川方面から」が9.5%（7人）、「その他」4.1%（3人）の順であった。

愛知県他隣県からの来訪者は「中津川方面から」が83.7%（87人）と最も多く、「伊那方面から」と「塩尻方面から」がともに3.8%（4人）、「高山方面から」2.9%（3人）、「その他」1.9%（2人）の順であった。

その他都道府県からの来訪者は「中津川方面から」32.3%（10人）、「伊那方面から」と「塩尻方面から」がともに22.6%（7人）、「その他」9.7%（3

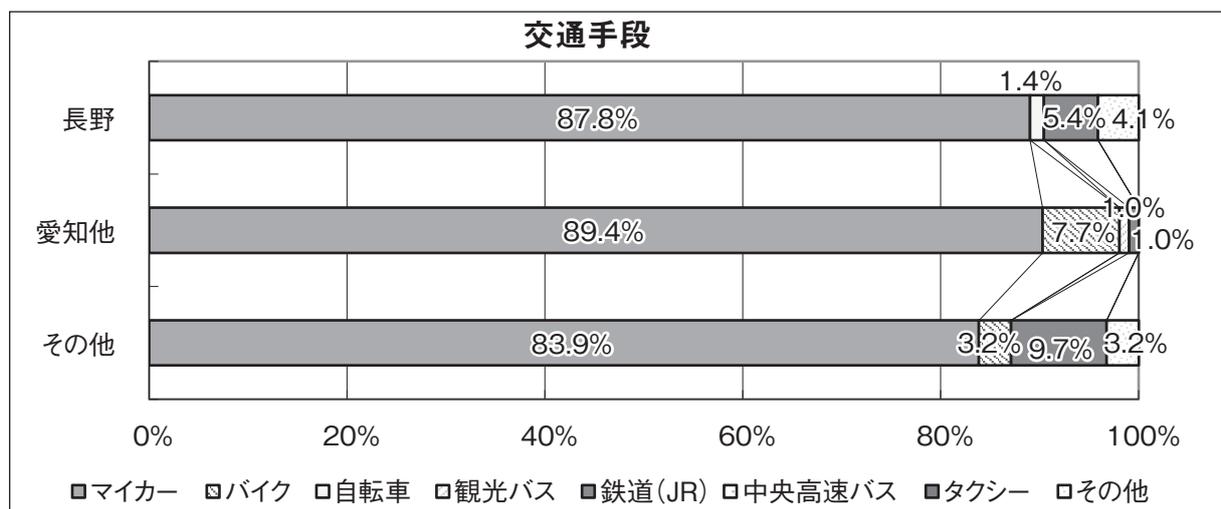


図8. 来訪者の主な交通手段

表2. マイカー利用者の調査地点別比率

	福島地区	道の駅日義	木曾市場	開田高原	計
割合	9.8%	31.5%	30.4%	28.3%	100.0%
人数	18	58	56	52	184

人)、「高山方面から」が3.2% (1人) の順であった。

旅行ルート(帰路)では、長野県内からの来訪者は「塩尻方面へ」が50.0% (37人) と最も多く、「伊那方面へ」27.0% (20人)、「中津川方面へ」5.4% (4人)、「その他」4.1% (3人) の順であった(図10参照)。

愛知県他隣県からの来訪者は「中津川方面へ」が76.0% (79人) と最も多く、「高山方面へ」6.7% (7人)、「伊那方面へ」4.8% (5人)、「塩尻方面へ」2.9% (3人) と「その他」1.9% (2人) の順であった。

その他都道府県からの来訪者は「塩尻方面へ」32.3% (10人)、「中津川方面へ」19.4% (6人)、「伊那方面へ」と「その他」がともに12.9% (4人)、「高山方面へ」3.2% (1人) の順であった。

往路と帰路の選び方が来訪者の居住地によって変化があるかどうか調べてみる。

長野県内からの来訪者で往路について回答した方は66人ある。図11aに示すように「塩尻方面から」訪れた人(35人)のうち94.3% (33人) が帰路も「塩尻方面へ」、2.9% (2人) は「中津川方面へ」向かい、未記入は2.9% (2人) であった。

「中津川方面から」訪れた人(7人)のうち、57.1% (4人) は帰路も「中津川方面へ」で、「塩尻へ」28.6% (2人)、「伊那方面へ」14.3% (1人) であった。

「伊那方面から」訪れた人(21人)のうち85.7% (18人) が帰路も「伊那方面へ」向かい、「塩尻方面へ」4.8% (1人) 未記入は9.5% (2人) であった。

愛知県他隣県からの来訪者で往路に回答した方は100人で、その帰路の内訳を図11bに示す。「塩尻方面から」訪れた人(4人)の帰路は「塩尻方面へ」と「中津川方面へ」がともに50.0% (2人) であった。

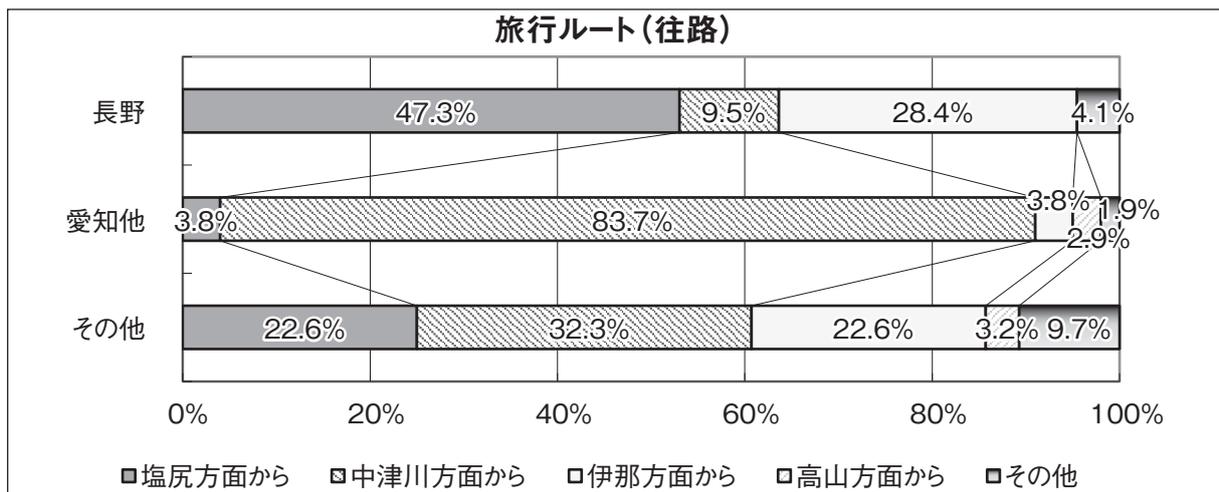


図9. 来訪者のルート (往路)

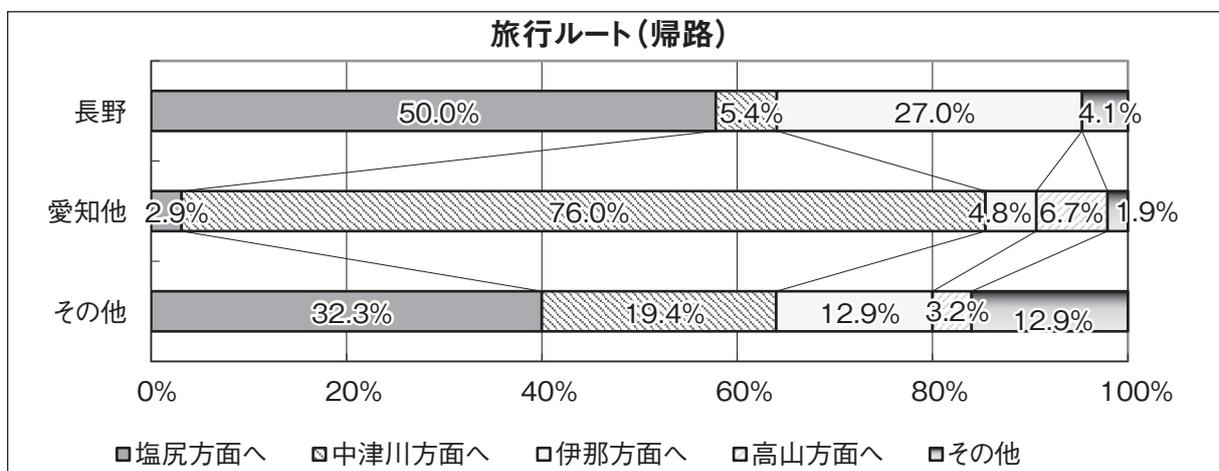


図10. 来訪者のルート (帰路)

「中津川方面から」訪れた方（87人）の帰路は「中津川方面へ」81.6%（71人）、「伊那方面へ」と「高山方面へ」がともに5.7%（5人）、「その他」1.1%（1人）、未記入5.7%（5人）であった。「伊那方面か

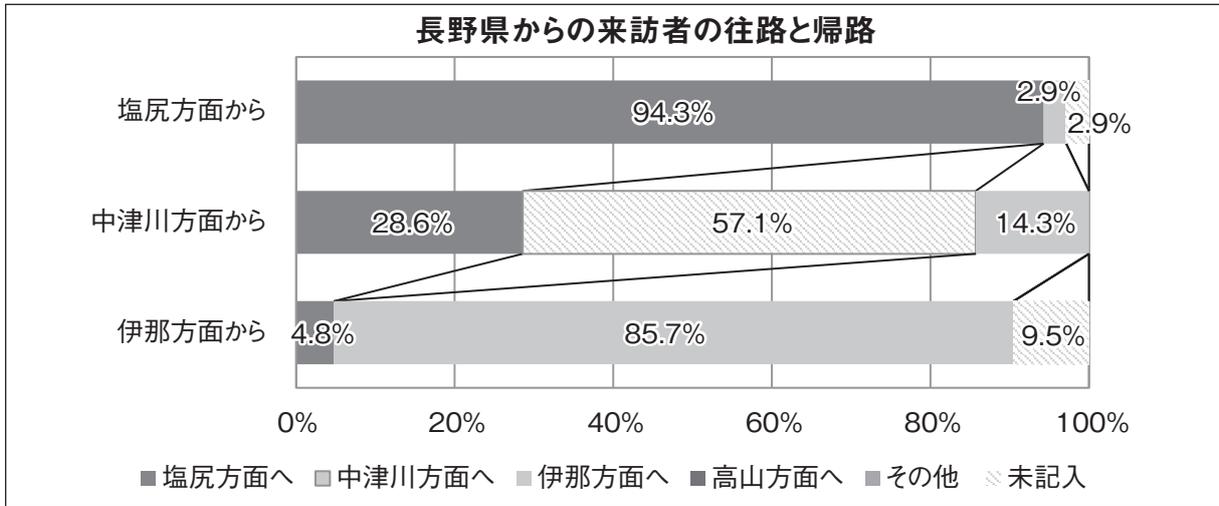


図11a. 長野県からの来訪者の往路と帰路

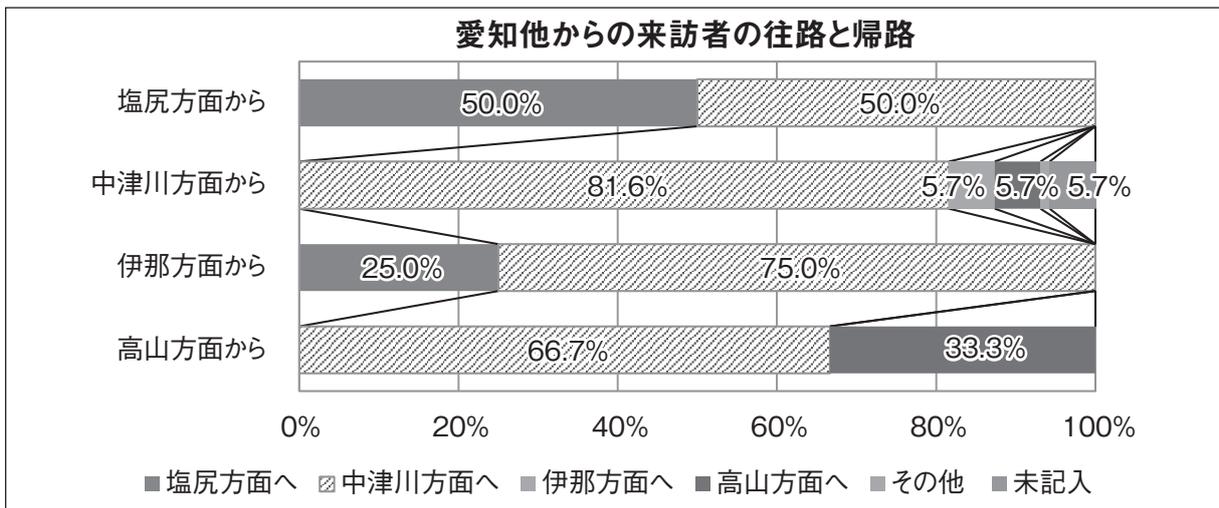


図11b. 愛知県他隣県からの来訪者の往路と帰路

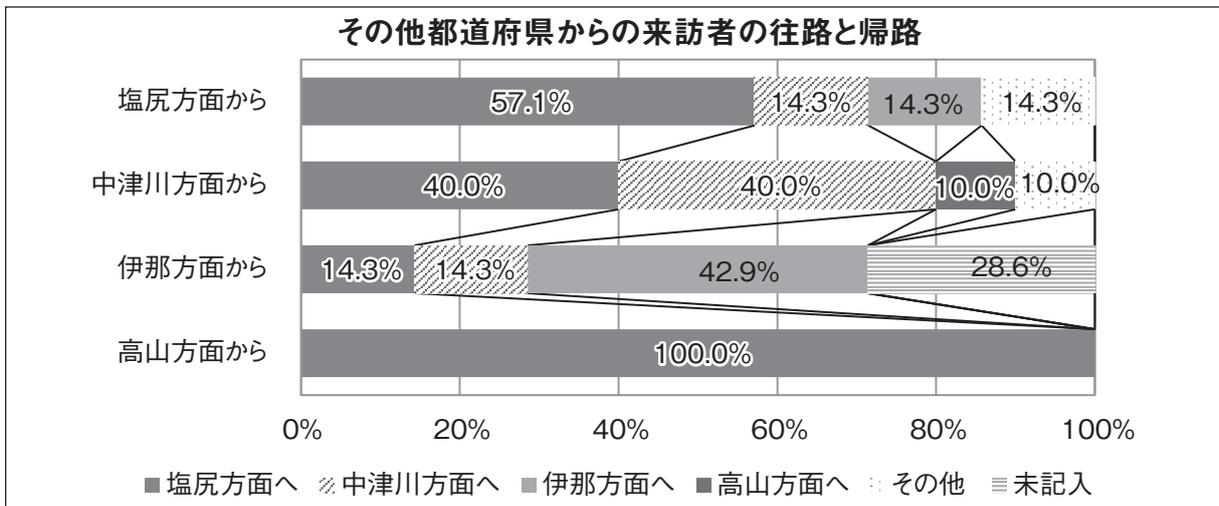


図11c. その他都道府県からの来訪者の往路と帰路

ら」訪れた人(4人)の帰路は「中津川方面へ」75.0%(3人)、「塩尻方面へ」25.0%(1人)であった。「高山方面から」訪れた人(3人)の帰路は「中津川方面へ」66.7%(2人)、「高山方面へ」33.3%(1人)であった。

その他都道府県からの来訪者で往路に回答した人(28人)の帰路の内訳を図11cに示す。

「塩尻方面から」訪れた人(7人)の帰路は「塩尻方面へ」57.1%(4人)、「高山方面へ」と「その他」がともに14.3%(1人)、未記入14.3%(1人)であった。「中津川方面から」訪れた人(10人)の帰路は「中津川方面へ」と「塩尻方面へ」がともに40.0%(4人)、「高山方面へ」と「その他」がともに10.0%(1人)であった。「伊那方面から」訪れた人(7人)の帰路は「伊那方面へ」42.9%(7人)、「塩尻方面へ」と「中津川方面へ」がともに14.3%(1人)、未記入28.6%(2人)であった。「高山方面から」訪れた人(1人)の帰路は「高山方面へ」であった。往路と帰路の関係については、長野県内からの来訪者では塩尻方面からと伊那方面からの場合高い比率で一致している。

### 5. 現在地への来訪回数と来訪目的

来訪者の現在地(木曾福島地区、開田高原、道の駅日義または木曾市場)への来訪回数を図12に示す。長野県からの来訪者(74人)は10回以上48.6%(36人)が最も多く、3~5回21.6%(16人)、2回目12.2%(9人)、6~9回9.5%(7人)、はじめて6.8%(5人)の順であった。愛知県他隣県からの来訪者(104人)は10回以上28.8%(30人)が最も多く、はじめて27.9%(29人)、3~5回20.2%(21人)、2

回目12.5%(13人)、6~9回7.7%(8人)の順であった。その他都道府県からの来訪者(31人)は、はじめて32.3%(10人)が最も多く、3~5回22.6%(7人)、2回目19.4%(6人)、10回以上12.9%(4人)、6~9回9.7%(3人)の順であった。

長野県内と愛知県他隣県からは10回以上訪れている来訪者の割合が最も高い。3回以上の来訪者をリピータと呼ぶことにすると、長野県内からのリピータは79.7%(59人/74人)、愛知県他隣県からのリピータは56.7%(59人/104人)、その他都道府県からのリピータは45.2%(14人/31人)となっている。

現在地(木曾福島地区、開田高原、道の駅日義または木曾市場)を訪れた目的(3つまで選択)は全体(209人)でみると、ドライブ(40.7%、85人)が最も多く、自然の風景(34.9%、73人)、その他(23.9%、50人)、産地直売品・おみやげ(18.2%、38人)、飲食(15.3%、32人)、温泉(足湯を含む)(11.5%、24人)、木曾馬牧場(6.7%、14人)、宿場ウォーク(3.3%、7人)、キャンプ(1.9%、4人)、登山(1.4%、3人)、トレッキング(1.0%、2人)、溪流釣り(0.5%、1人)の順であった。

居住地別に見てみると(図13)、長野県からの来訪者(74人)は、ドライブ35.1%(26人)、自然の風景33.8%(25人)、その他29.7%(22人)、産地直売品・おみやげ21.6%(16人)、飲食13.5%(10人)、温泉(足湯を含む)9.5%(7人)、木曾馬牧場6.8%(5人)、宿場ウォーク4.1%(3人)の順であった。

愛知県他隣県からの来訪者(104人)は、ドライブ45.2%(47人)、自然の風景36.5%(38人)、産地直売品・おみやげ19.2%(20人)、飲食18.3%(19人)、その他17.3%(18人)、温泉(足湯を含む)

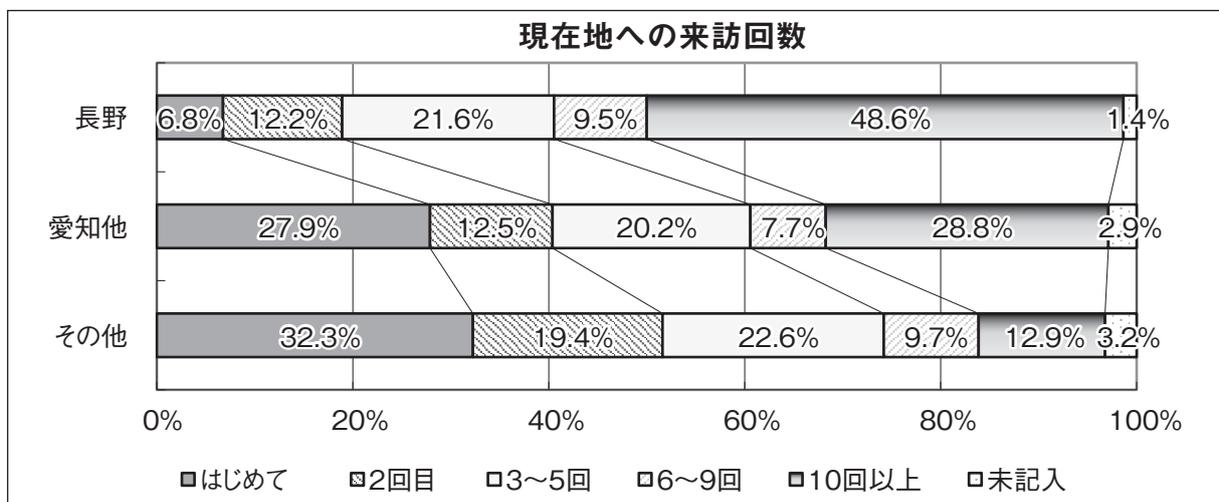


図12. 木曾町への来訪回数

12.5%（13人）、木曾馬牧場6.7%（7人）、登山2.9%（3人）の順であった。

その他都道府県からの来訪者（31人）は、ドライブ38.7%（12人）、自然の風景32.3%（10人）、その他32.3%（10人）、温泉（足湯を含む）12.9%（4人）、宿場ウォーク12.9%（4人）、飲食9.7%（3人）、キャンプ9.7%（3人）、産地直売品・おみやげ6.5%（2人）、木曾馬牧場6.5%（2人）、溪流釣り3.2%（1

人）の順であった。来訪目的については、自然の風景とドライブが共通して多い。また、宿場ウォーク、トレッキング等スポーツ的レジャーが少ない。これは近年増しているインバウンド客と比べてみたい。

表3に木曾町を訪れた目的のその他として記述された項目を示す。アンケート調査を行った10月3日に開催中であったイベント、「きのこまつり」を目的の1つとする方が17人と際立っている。

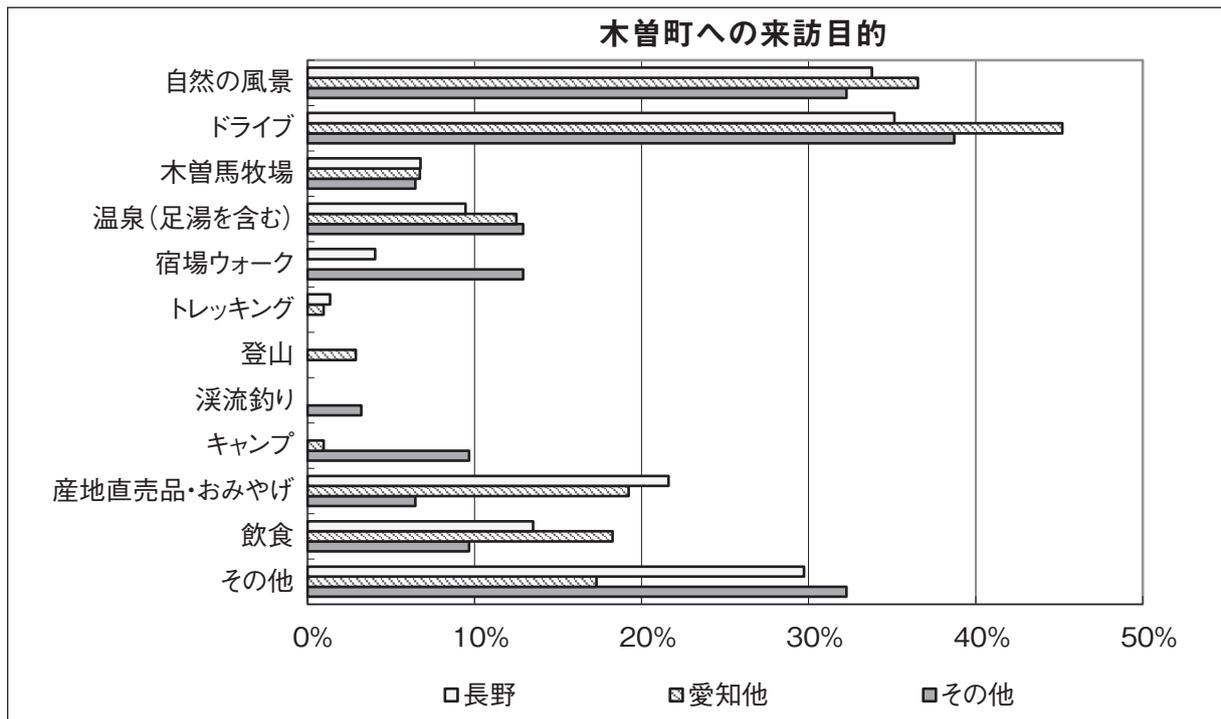


図13. 木曾を訪れた目的

表3. その他の目的の内訳

長野県		愛知県他隣県		その他	
項目	度数	項目	度数	項目	度数
きのこまつり	9	きのこまつり	7	仕事	2
高校(学校1を含む)	2	新そば(そば1を含む)	2	法事	2
御嶽山を見に	1	別荘で過ごす	2	きのこまつり	1
買い物	1	会議	1	ゴルフ	1
観光	1	下呂うまいもん祭り	1	たき火	1
栗小餅購入	1	サイクリング	1	通過点	1
実家	1	撮影	1	道の駅めぐり	1
住むため	1	里帰り	1		
そば祭	1	山荘	1		
釣り堀	1	マラソン大会	1		
焼き栗	1				

## 6. 訪れた場所、またはこれから訪れる予定の場所

今回の旅行で訪れた場所、または訪れる予定の場所（5つまで選択）に対する全体（209人）の集計結果を表4に示す。

上位に注目してみると、開田高原（九蔵峠展望台を含む）（16.9%、42人）に最も多くの人を訪れている。第3位にやぶはら高原（12.0%、30人）、第6位に木曾馬の里（9.6%、24人）が入っていることから、「同伴者」で最も多かった家族（子連れ）で楽しめる場所に人気が集まったことがわかる。

第2位は奈良井宿（15.7%、39人）であった。「年齢」で40～50歳代の来訪者が多かったことから、情緒溢れる街並み、そこで買える食べ物、漆器などを求めて訪れていることがわかる。

第4位日義・木曾駒高原道の駅（10.8%、27人）、第5位道の駅木曾福島（10.4%、26人）は調査地点でもあるが、産地直売品、その土地でしか買えないお土産などを求める来訪者が多く訪れていることを覗わせる。

第8位やまゆり荘（8.4%、21人）には温泉と飲食（いwana料理など）を求めて、第9位御嶽山、寝覚の床（6.8%、17人）には自然の景色を求めて訪れているのであろう。

居住地別に訪れた場所、または訪れる予定の場所を集計した結果を図14に示す。長野県内からの来訪者は、奈良井宿と開田高原（九蔵峠展望台を含む）がともに15.0%（9人）と最も多く、日義・木曾駒高原道の駅が11.7%（7人）、藪原宿10.0%（6人）、やぶはら高原、寝覚の床8.3%（5人）の順であった。街並みや自然の風景、地元の食材を求めていることがわかる。

愛知県他隣県からの来訪者は、開田高原（九蔵峠展望台を含む）が19.6%（22人）と最も多く、やぶはら高原が13.4%（15人）、道の駅木曾福島が12.5%（14人）、その他が11.6%（13人）、奈良井宿、木曾馬の里、やまゆり荘が10.7%（12人）の順であった。その他には、「トロッコ」、「ブルーベリー狩り」、「高山」、「松本城」、「温泉」などが挙げられていた。他の居住地域と比べてみても、開田高原（九蔵峠展望台を含む）へ訪れる割合が高い。家族（子連れ）での来訪が多かったため、家族で遊べる場を求めていた可能性がある。

その他都道府県からの来訪者は、奈良井宿が23.4%（18人）と最も多く、開田高原（九蔵峠展望台を含む）が14.3%（11人）、やぶはら高原と日義・木曾駒高原道の駅がともに13.0%（10人）、福島関

表4. 訪れた場所、これから訪れる予定の場所（全体）

順位	項目	度数	割合	順位	項目	度数	割合
1	開田高原（九蔵峠展望台を含む）	52	24.9%	18	興禅寺	6	2.9%
2	その他	35	16.7%	18	馬籠宿（藤村記念館）	6	2.9%
2	道の駅日義木曾駒高原	35	16.7%	18	道の駅大桑（木楽舎）	6	2.9%
4	道の駅木曾福島	33	15.8%	21	平沢漆器街	4	1.9%
5	木曾馬の里	25	12.0%	21	ふるさと体験館きそふくしま	4	1.9%
6	彩菜館	24	11.5%	21	やぶはら高原	4	1.9%
7	奈良井宿	17	8.1%	21	義仲館	4	1.9%
8	御嶽山	16	7.7%	25	木曾駒高原	3	1.4%
9	寝覚の床	11	5.3%	26	赤沢自然休養林	2	1.0%
10	御岳ロープウェイ	10	4.8%	26	藪原宿	2	1.0%
10	福島関所	10	4.8%	28	鳥居峠	1	0.5%
12	上の段の街並み	9	4.3%	28	フォレスパ木曾	1	0.5%
12	木曾暮らしの工芸館	9	4.3%	28	桃介橋	1	0.5%
14	妻籠宿	8	3.8%	31	御嶽神社	0	0.0%
14	やまゆり荘	8	3.8%	31	油木美林	0	0.0%
16	道の駅三岳	7	3.3%		合計	360	172.2%
16	山村代官屋敷	7	3.3%				

所、木曾馬の里、道の駅木曾福島、御嶽山、御岳ロープウェイが11.7% (9人) の順であった。奈良井宿、寝覚の床などへの来訪が長野県内および愛知県他隣県と比べて多いことが目立っている。これらの観光スポットは長野県内および愛知県他隣県以外の都道府県での知名度が高いこと、または県内訪問中に存在を知られて興味を持たれたとみることができる。

訪れる場所のその他として記述されたものを以下に示す。長野県内からの来訪者はきのこまつり

(5)、元町商店街(2)、以下は各1で、塩尻市、森林公園、田ぐち[注:地元和菓子店]、直売所、福島町内、道の駅、木曾福島駅周辺であった。愛知県他隣県からの来訪者は温泉(2)、きのこまつり

(2)、以下は各1で、御嶽復興マラソンに出場、御嶽スカイライン、塩尻、児野山、せせらぎ[注:日帰り温泉施設]、千畳敷、そば、濁河温泉[注:岐阜県下呂市]であった。その他都道府県からの来訪者は「行き当たりばったり」、「きのこまつり会場の近く」、「キャンプ場」、「滝を見るため」であった。

### 7. 情報収集の方法と求める地域情報

来訪者の現在地(木曾福島地区、木曾市場、開田高原および日義木曾駒高原道の駅)に関する情報収集の方法(3つまで選択)を、全体(209の単純集計)でみると、「以前に来た」(33.5%、70人)が最も多く、インターネット(12.9%、27人)、「ここではじめて」(11.5%、24人)、道沿いの看板(10.5%、

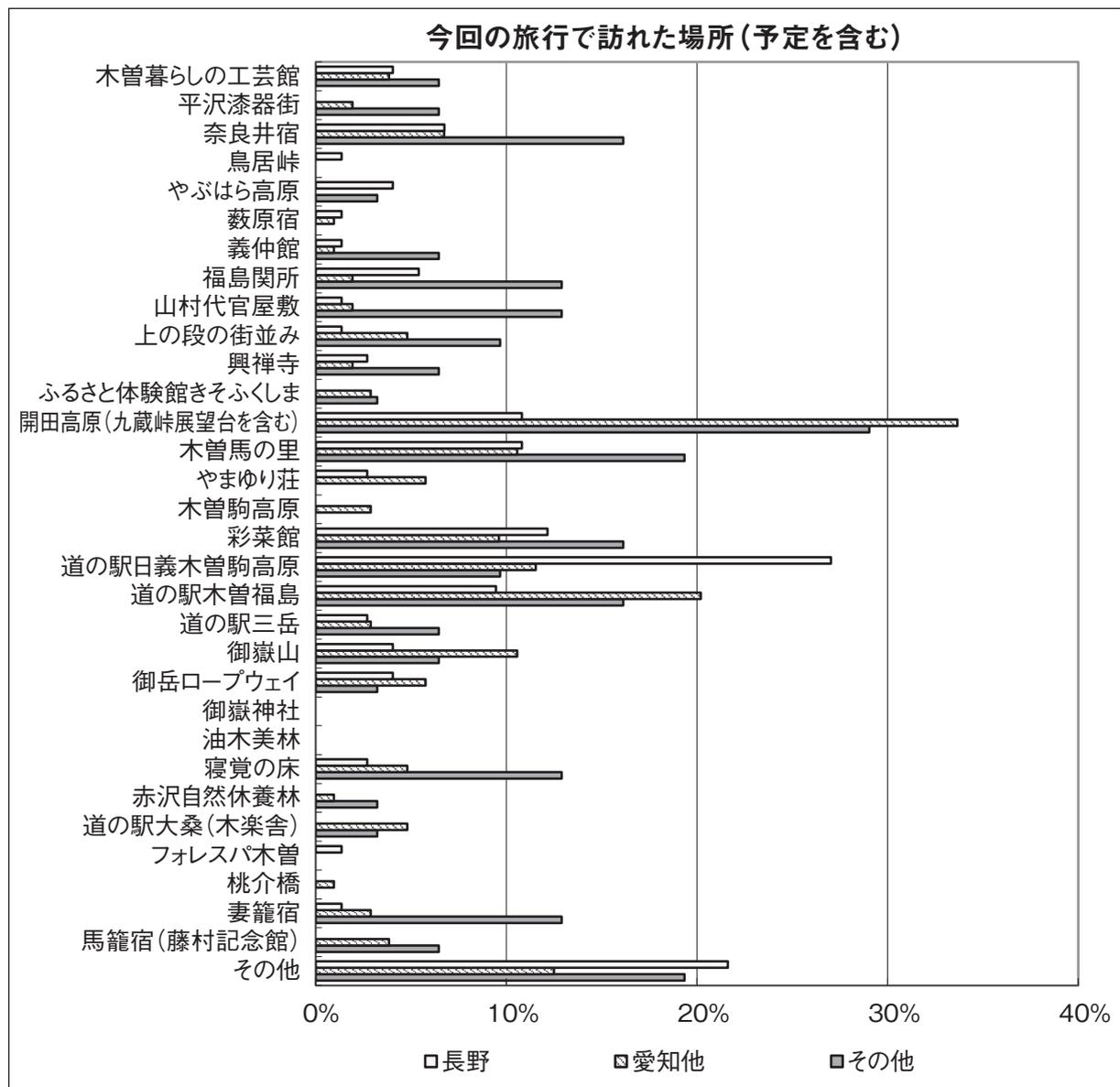


図14. 今回の旅行で訪れた場所、または訪れる予定の場所

22人)が上位を占めた。

居住地別に情報収集の方法を集計した結果を図15に示す。長野県内からの来訪者は、「以前に来た」(44.6%、33人)が最も多く、「ここではじめて」(12.2%、9人)、インターネットと道沿いの看板が同数(10.8%、8人)、新聞・チラシ(9.5%、7人)であった。

愛知県他隣県からの来訪者は、「以前に来た」(31.7%、33人)が最も多く、次がインターネット(13.5%、14人)、口コミ(11.5%、12人)、「ここではじめて」(10.6%、11人)、沿道沿いの看板(9.6%、10人)が上位であった。

その他都道府県からの来訪者は、観光パンフとインターネットが同数だった(16.1%、5人)。次に、「以前に来た」「ここではじめて」「沿道の看板」が同数で続いている(12.9%、4人)。

長野県内からは、以前から知っておりリピータとして訪れている人が多いと言えるが、今回初めて来た観光客は少なかったとも言える(図12参照)。また観光パンフやガイドブックなどの情報冊子で情報を得ていることがわかる。また、愛知県他隣県からは、「以前に来た」が多くなっていることから、ここでもリピータが多くいることがわかる。その他の都道府県からは、初めて訪れて情報を得ている方

が多くいる。また、長野県内および愛知他隣県と比べてもガイドブックや観光パンフなどの情報冊子で情報を得ている方が多いこともわかる。

この地域に関するほしい情報(3つまで選択)を全体(206人)でみると、食事の楽しめる場所(37.3%、78人)が最も多く、温泉施設(30.1%、63人)、農産物直売所(21.5%、45人)、さらに「季節のイベントや催し」と「自然に触れあえる場所」(20.6%、43人)、ドライブコース・道路(19.6%、41人)、と続いた。

この地域に関するほしい情報(3つまで選択)を居住地別に集計した結果を図16に示す。

長野県内からの来訪者におけるほしい情報の上位は、食事の楽しめる場所(37.3%、27人)が最も多く、「季節のイベントや催し」が(29.7%、22人)、温泉施設(28.4%、21人)、農産物直売所(20.3%、15人)、そして「自然に触れあえる場所」(17.8%、13人)であった。

次に、愛知県他隣県からの来訪者の場合は、食事の楽しめる場所(44.2%、46人)、温泉施設(36.5%、38人)、ドライブコース・道路(26.0%、27人)、農産物直売所(22.1%、23人)、自然に触れあえる場所(21.2%、22人)、季節のイベントや催し(17.3%、18人)が上位を占めている。

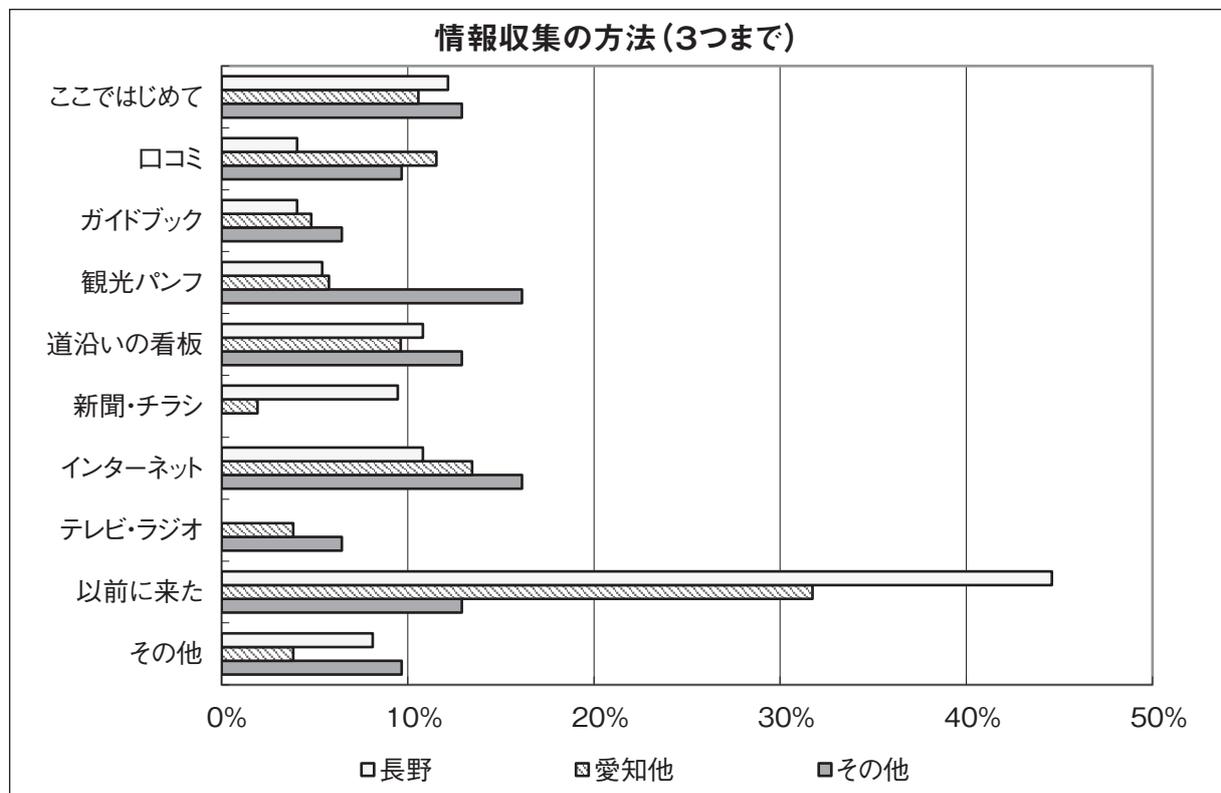


図15. 木曾町の情報収集の方法

そして、其他都道府県からの来訪者の場合は、自然に触れ合える場所（25.8%、8人）が最も多く、農産物直売所（22.6%、7人）、食事の楽しめる場所とドライブ・道路が同数（16.1%、5人）、温泉施設（12.9%、4人）が上位を占めた。

### 8. 旅行予算とお土産代

旅費と宿泊費を除く一人当たりの予算を図17に示す。

未記入を除いて有効回答（225）の金額の区間の中央値を用いて、来訪者の旅費と宿泊費を除く1人当たりの予算（旅行予算）の平均値を求めてみる。例えば、5,000円未満の区間の場合、その中央値は  $(0+5,000) / 2 = 2,500$ （円）となる。5,000円以上1万円未満の区間では、 $(5,000+10,000) / 2 = 7,500$ （円）となる。以下では2万円以上の区間の中央値として2,500円（かっこ内は3,000円）の2通りの場合を計算した。

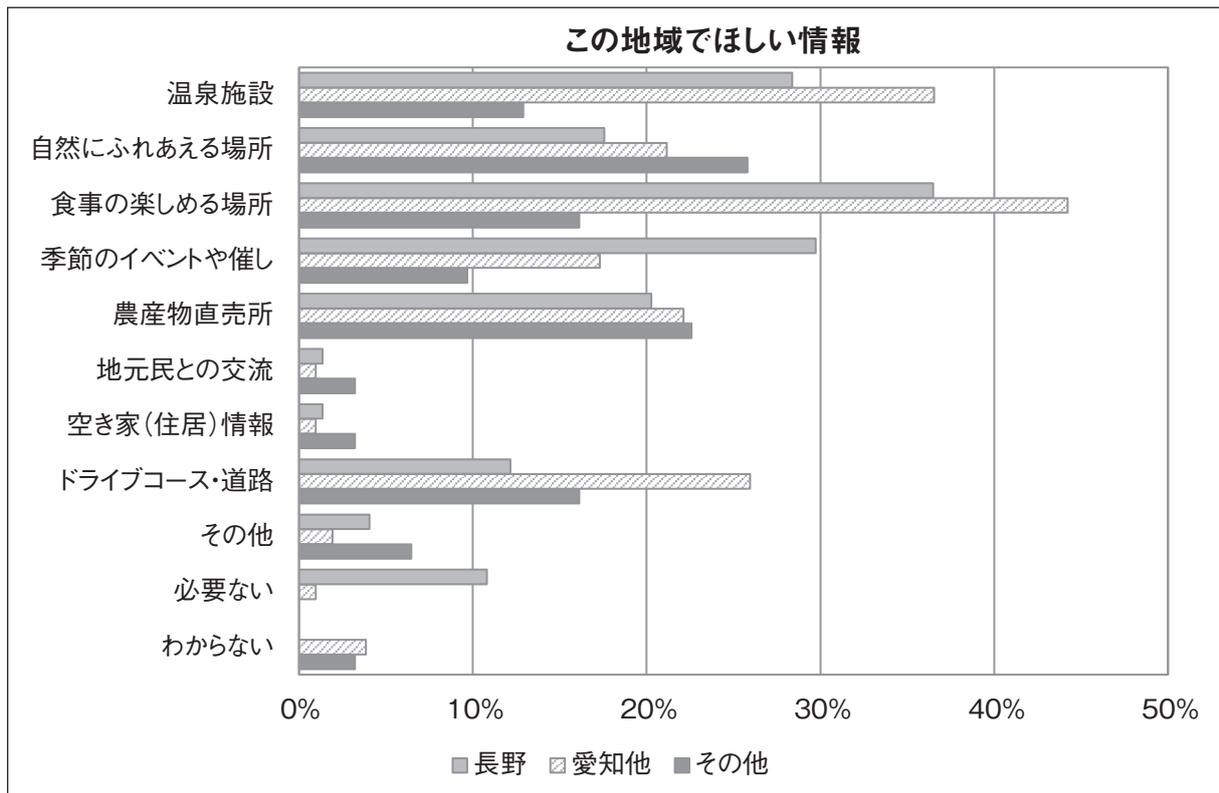


図16. この地域でほしい情報

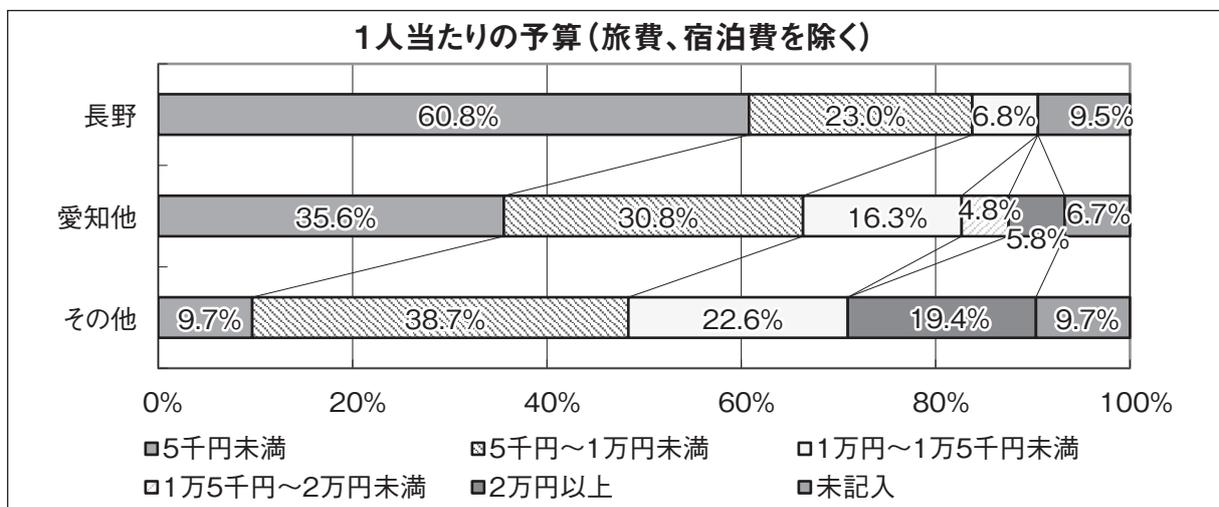


図17. 旅費、宿泊費を除いた旅行の予算

表5. お土産として購入したもの

長野県		愛知県他隣県		その他都道府県	
品名	度数	品名	度数	品名	度数
きのこ	12	野菜	18	りんご	5
栗小餅	5	そば	10	きのこ	4
果物	3	松茸	10	そば	3
栗きんとん	3	ぶどう	6	とうもろこし	3
松茸	3	果物	6	野菜	3
野菜	3	きのこ	5	お菓子	2
とうもろこし	2	酒	5	果物	2
農産物	2	漬物	5	酒	2
花	2	りんご	5	松茸	2
アイスクリーム	1	菓子	3	ワイン	2
お菓子	1	栗	2	アイスクリーム	1
お菓子(モロコシを使った)	1	栗きんとん	2	甘柿	1
お酒	1	そば饅頭	2	クッキー	1
キノコ類	1	チーズ	2	しいたけ	1
栗	1	とうもろこし	2	ジャム	1
さつまいも	1	梨	2	旬のもの	1
しいたけ	1	箸	2	セロリ	1
食用ほおずき	1	ヨーグルト	2	チーズ	1
そば饅頭	1	アイス	1	はし	1
パン	1	漆の食器	1	ぶどう	1
服	1	寒天	1	マスカット	1
ぶどう	1	木曾の塗りばし	1	マツタケ	1
マツタケご飯	1	くりこもち	1	孫の手	1
味噌飴	1	ごぼう	1	農作物	1
菓子	1	すんき	1		
五平餅	1	大福	1		
松の実クッキー	1	つみき	1		
		特産品	1		
		農作物	1		
		白菜	1		
		パン	1		
		プルーン	1		
		木製品	1		
		もなか	1		
		野菜(しいたけ)	1		
		りんごサイダー	1		
		ワイン	1		
		和菓子	1		

長野県内からの来訪者（67人）の旅行予算の平均値は4,515円（4,515円）、其他都道府県からの来訪者（28人）の場合平均値は11,964円（13,036円）、そして愛知県他隣県からの来訪者（97人）の旅行予算の平均値は8,067円（8,376円）だった。全来訪者（192人）の旅行予算の平均値は7,396円（7,708円）となる。

旅費と宿泊費を除く旅行の1人当たりの予算の集計結果を図18に示す。長野県内からの来訪者は、2千円未満（50.0%、37人）と一番多く、次に2千円以上4千円未満（28.4%、21人）、そして4千円以上6千円未満（4.9%、11人）となっている。

愛知県他隣県からの来訪者の場合は、2千円未満（42.3%、44人）、2千円以上4千円未満（25.0%、26人）、4千円以上6千円未満（9.6%、10人）の順に多かった。そして、其他都道府県からの来訪者の場合は、2千円以上4千円未満（32.3%、10人）、次に2千円未満および8千円以上1万円未満が同数（22.6%、7人）となった。

お土産代についても有効回答（193人）の金額の各区間の中央値を用いて、来訪者1人当たりが使うお土産代の平均値を求めてみる。ただし、1万円以上の区間の中央値としては15,000円（かっこ内は20,000円）を用いた。

長野県内からの来訪者（70人）のお土産代の平均値は2,314円（2,314円）、愛知県他隣県からの来訪者（95人）のお土産代の平均値は3,611円（3,979円）、其他都道府県からの来訪者（28人）のお土産代の平均値は4,714円（4,893円）となる。全来訪者（193人）のお土産代の平均値は3,301円（3,508円）となる。

### 9. お土産として購入したものと購入したいもの

木曾地域を訪れる観光客がどのようなものをお土産として求めているかを知るために、購入したお土産品とお土産としてどんなものをお土産として購入したいかについて質問した（記述式）。購入したお土産品を表6に挙げる。長野県内からの来訪者ではきのこが目立つ。愛知県他隣県は、野菜、そば、松茸の購入例が目立つが、他はさほどまとまった数となっていない。其他都道府県は、りんご、きのこが上位だが、其他特定の品目に集中する傾向はないと言える。

お土産として購入したいものを表7に挙げる。全体として特定の品目に集中しているわけではないが、食品を求める傾向は高い。長野県内からの来訪者ではきのこ、おいしいもの、愛知県他隣県からの来訪者では果物、食物、野菜が上位となった。其他都道府県からの来訪者の場合は食品以外の明確な回答はなかった。全体としてみても、食品以外の需要は低く、孫の木のおもちゃ（長野県からの来訪者）、漆の食器と木工品（ともに愛知県他隣県）が各1の回答があったのみである。

お土産品がどこで製造されたか（製造元）を調べた上で購入するかの問いに対する集計結果を図19に示す。注意する（はい）と答えた人は、長野県内からの来訪者では約31.1%、愛知県他隣県では約26.9%、其他都道府県では約29.0%となっている。これに対して、注意しないという人の方がむしろ多い。長野県内では44.6%、愛知県他隣県が52.9%、其他都道府県が48.4%となっている。

製造元に注意するか（はい）の答えに対する理由を表8に示す。原産地がいいまたは地元産である

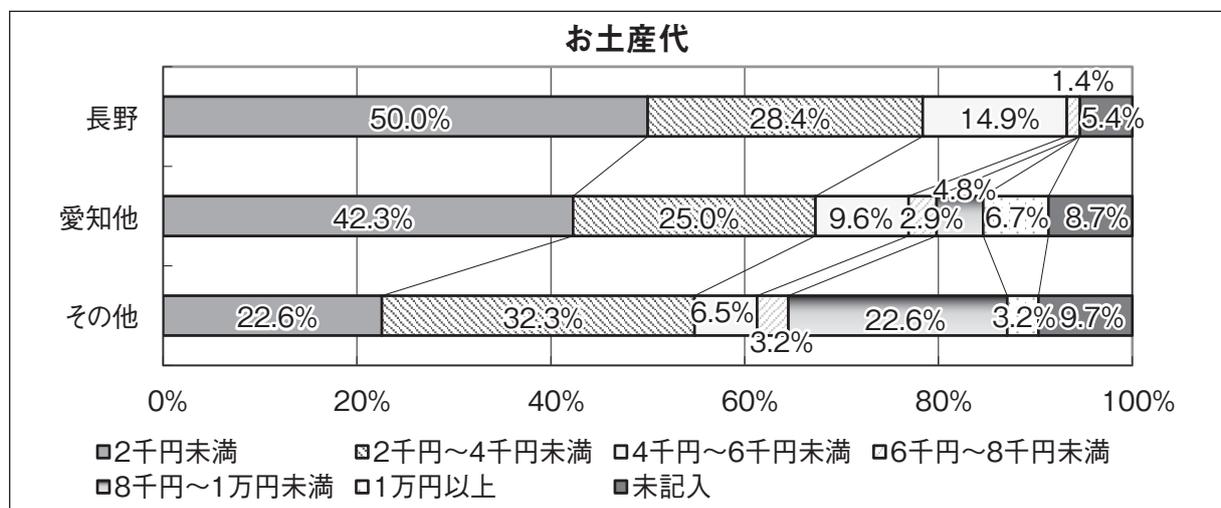


図18. お土産代

ことといった理由が目立つ。それは、長野県内からの来訪者の場合は7、愛知県他隣県の場合は11、そしてその他都道府県の場合は7と、地元産志向とみなせる回答が目立った。

いいえの理由は愛知県他隣県の方3人が記述し

ていて、「気にしていない」、「直感」、特に「見ない」であった。

### 10. おいしかったもの

居住地別に集計した結果を図20に示す。長野県

表6. お土産として探しているもの

長野県		愛知県他隣県		その他都道府県	
品名	度数	品名	度数	品名	度数
きのこ	6	果物	6	おいしいもの	1
おいしいもの	2	食物	4	きのこ	1
果物	2	野菜	4	決めてない	1
農産物	2	酒	3	果物	1
色々	1	おいしいもの	2	酒	1
お菓子	1	栗小餅	2	すんきそば	1
お菓子(モロコシを使った)	1	地元のおいしいもの	2	食べ物	1
季節物	1	農産物	2	漬物	1
栗菓子	1	松茸	2	他の物	1
栗小餅	1	色々	1	名産品(食べ物)	1
食品	1	漆の食器	1	名物	1
その地でしか買えないもの	1	お菓子	1	銘菓	1
白菜	1	記念になるもの	1	和菓子	1
孫の木のおもちゃ	1	栗きんとん	1	飲み物	1
紅葉巻き	1	高原野菜	1	そば	1
菓子	1	コーンスープ	1		
木工品	1	地元の果物	1		
		地元野菜	1		
		地物産の加工品	1		
		食器	1		
		そば	1		
		地元の酒	1		
		直売品	1		
		漬物	1		
		とうもろこし	1		
		特産品	1		
		日本酒	1		
		フルーツジュース	1		
		みそ	1		
		木工品	1		
		ヨーグルト	1		
		リンゴ	1		
		レタス	1		

内からの来訪者では、多い方から蕎麦（59.5%、44人）、次にアイスクリーム（29.7%、22人）そして栗こもち（21.6%、16人）が上位を占めた。愛知県他隣県では、蕎麦（73.1%、76人）、次にアイスクリーム（22.7%、35人）、そしてとうもろこし（18.3%、19人）が上位を占めている。その他都道府県では、蕎麦（74.2%、23人）、次にとうもろこし（16.1%、5人）、そしてアイスクリームときのか（鍋）（12.9%、4人）が同数で続いた。

飲食しておいしかったものの中で、その他に具体的に記述されていたものを表8に示す。特に目立った傾向はないとも言えるが、木曾牛、そばまんじゅう、きのこ類といった地元の名産物が目立つという

のは木曾地域の特性を反映しているとも言える。

他にどんな（食材を使った）料理を食べてみたいですか（記述式回答）に対する回答を表9に示す。来訪者の居住地域ごとの特性というものは見られないが、そば、きのこ類、山菜、岩魚など木曾地域の名産品が並んでいるという共通性は見られる。

## 11. 木曾路の印象

木曾路の印象を図21に示す。よい印象を持った人はいずれの地域からの来訪者も80%以上となっている。

さらに、木曾路（木曾福島、開田高原または道の駅日義）にまた来たいかという問いに関する集計結

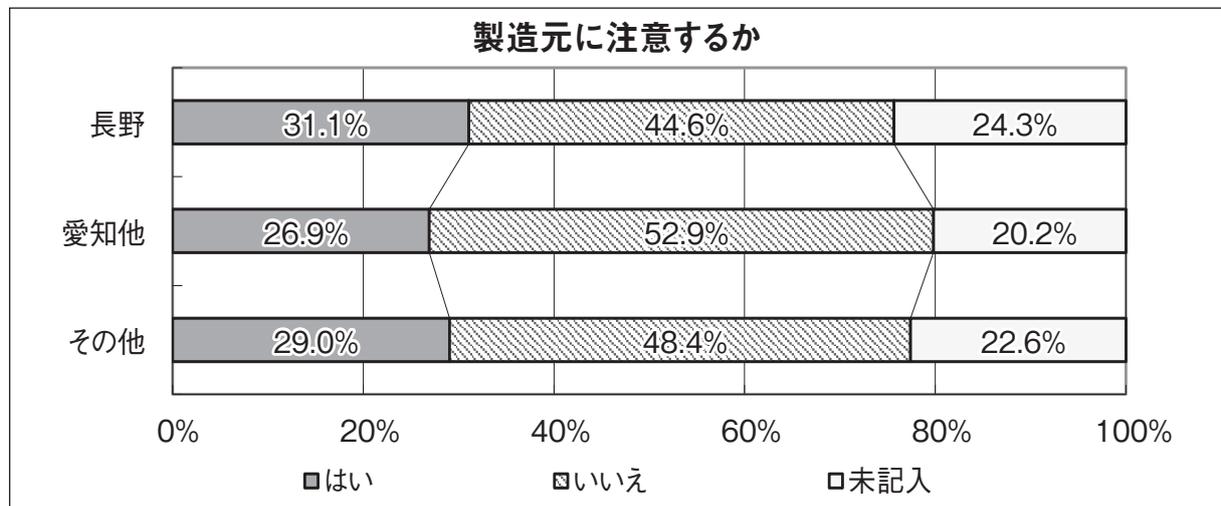


図19. お土産品の製造元

表7. 製造元に注意する（はい）に対する理由

はいの理由		
長野県	愛知県他隣県	その他都道府県
原産地 (4)	地元産がよい (5)	原産地
いつもの	原産地 (3)	地元産か知りたい
おいしい物を食べたいから	安心して食べたい	地元産への期待
会社名	うわさ	地元産を購入する
仕入れているものだと来て買った意味がない	国産が安全なので	地元のもの
地元産がいいので	再度ほしいと思うから	せっかくなので土地のものを
地元製造のモノが食べたい	地元産が食べたい	その土地のものか確認
	地元産じゃないと恥をかくから	
	添加物が気になるから	
	特産品がよいため	
	店の名前	

果を図22に示す。どの居住地域からの来訪者も、是非来たい、および機会があれば来たいを合計すると90%を超え、木曾地域には大変良い印象を持っていることがわかる。

最後に「日本の美しい村連合」を知っているか尋ねた結果を図23に示す。長野県内からの来訪者は29.7%、愛知県他隣県からの来訪者は10.6%、その他都道府県からの来訪者は9.7%が知っている

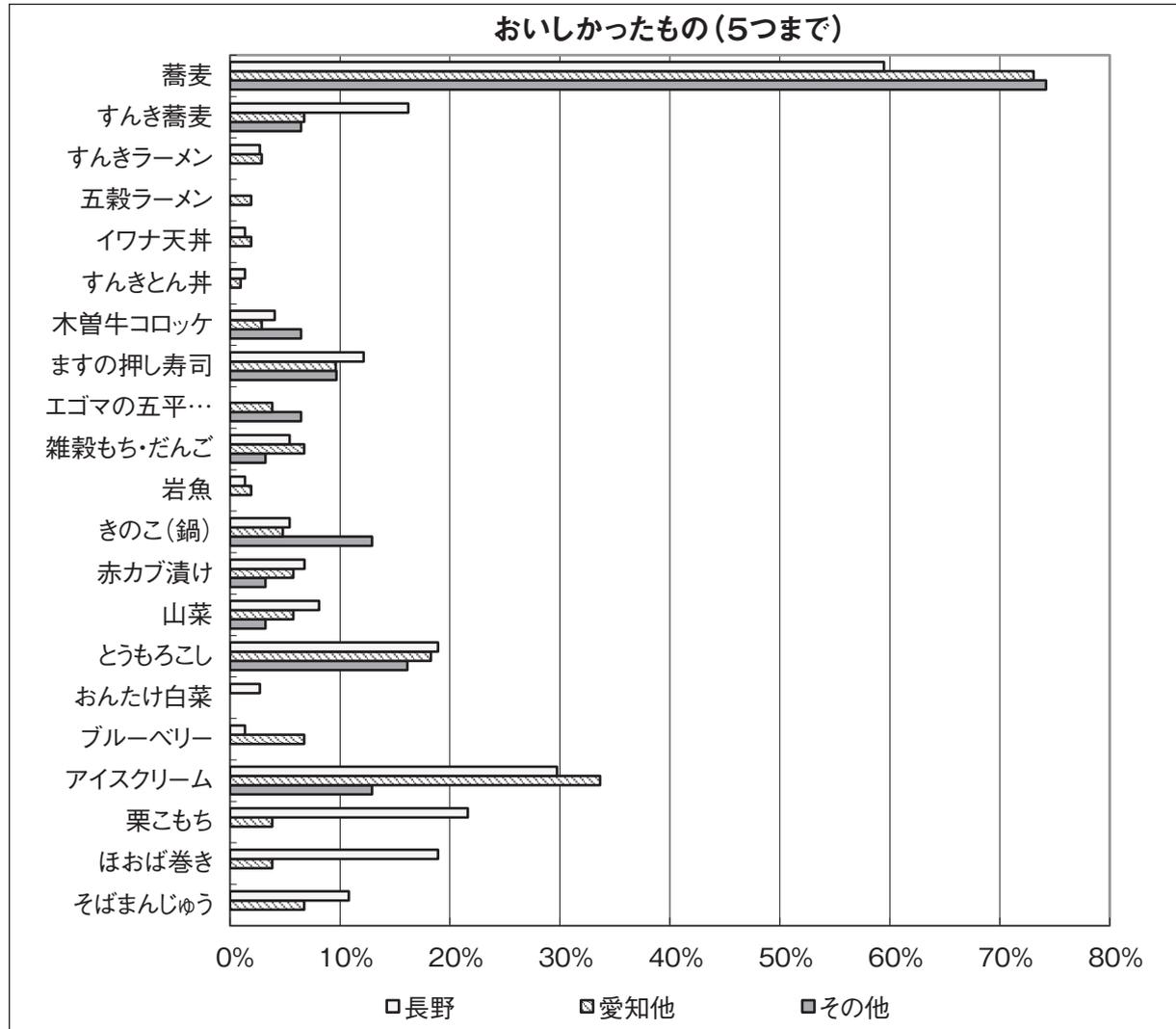


図20. 飲食しておいしかったもの

表8. 飲食しておいしかったもの、その他に挙げられた品目

長野県	愛知県他隣県	その他都道府県
きのこ (2)	ラーメン屋 (2)	おやき
たこ焼き (2)	うどん	山賊焼き
岩魚	そば茶	ラーメン
木曾牛	そば豆腐	
食用ほおずき	松茸	
そばまんじゅう	まんじゅう	
とうもろこし	栗こもち	
どんぐり		
魚		

えている。しかし、知らないという回答者がそれぞれ、60.8%、80.8%、80.6%と高く、特に長野県外での認知度が低いことがわかった。

## 12. 木曾町に対する意見

木曾町に対する意見を記述式質問で求め、これについて表10に示した。自然に関する回答と交通の便についての回答が目立つ。御嶽山の災害から

の復興について触れる回答は少なかった。

## Ⅲ. 結

木曾福島地区、開田高原および道の駅日義への来訪者に対して2015年10月3日（土）に行ったアンケート調査の結果を、長野県、愛知県他隣県（愛知、岐阜、静岡）、その他都道府県からの来訪者の3つの居住地域に分けて集計・分析した。

表9. どんな（食材を使った）料理を食べてみたいですかに挙げられた品目

長野県		愛知県他隣県		その他	
品目	度数	品目	度数	品目	度数
そば	4	きのこ	3	きのこ	2
五平餅	3	山菜	3	そば	2
岩魚	2	ジビエ料理	3	鮎の塩焼き	1
		そば	3	牛肉	1
いろいろなもの	1	きのこ料理	2	栗こもち	1
川魚	1	栗きんとん	2	地元野菜を盛り込んだ 麺類	1
季節品	1	魚	2	ソースかつ丼	1
木曾牛	1	ジンギスカン	2	ねりきり	1
きのこ	1	馬刺し	2	豚肉	1
きのこ汁	1	松茸	2	野菜	1
山菜	1	ラーメン	2		
朴葉巻き	1	鮎料理	1		
松茸	1	岩魚	1		
松茸ご飯	1	川魚	1		
モロコシを使った料理	1	牛肉	1		
大葉	1	くり	1		
		五平餅	1		
		山菜そば	1		
		地元産のものだったら何 でもよい	1		
		信州サーモン	1		
		すし	1		
		ソフトクリーム	1		
		だんご	1		
		とうもろこしの創作料理	1		
		肉	1		
		ますの押し寿司	1		
		焼肉	1		
		わさび	1		
		栗おはぎ	1		

今回の調査でわかったこととして、木曽地域の観光地としての満足度が高いことである。「木曽路の印象」についての質問では、図21で示されたようにいずれの居住地からの来訪者も80%以上が「よかった」と答えている。特に愛知県他隣県からの来訪者の場合、90.4%が「よかった」と答えていることは、木曽地域に隣接する他県からの観光客にとって、比較的近い距離にある山の観光地として好印象で受け取られているとみることができる。

さらに「木曽路にまた来たいか」という質問についてみると、図22で示されたように長野県内からの来訪者が68.9%、愛知県他隣県からの来訪者が71.2%、その他都道府県からの来訪者では67.7%が「ぜひ来たい」と答え、「機会があればまた来たい」がそれぞれ25.7%、26.0%、29.0%となっている。「ぜひ来たい」と「機会があればまた来たい」を合

わせると、長野県内からの来訪者では94.6%、愛知県他隣県からの来訪者では97.2%、その他都道府県からの来訪者では96.7%となっている。これらの数字はその日の瞬間的な反応でもあり、次の旅行の機会に他の観光地との比較などから確実にリピータになるとは言い切れないが、少なくとも次の旅行の機会に選択肢の一つとして視野に置かれることにはつながると言えるだろう。

今回の調査では2014年9月の御岳山噴火の影響が懸念された。御岳山噴火から1年後の調査であったが、地元での聞き取りでは観光客の減少が指摘されていた。この調査では、それを明確に裏付けられるような結果は得られたとは言えない。しかし、関連性があると言えるものとして、前回2014年7月の調査と比較すると、旅行日程での日帰り観光客が増えていることが挙げられる。前回調査では日帰り観

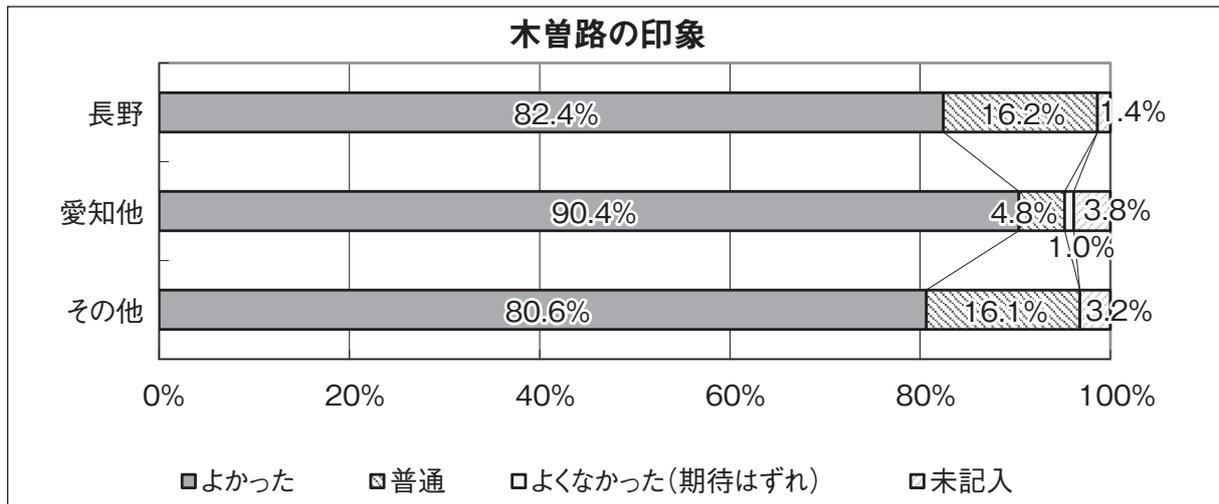


図21. 木曽路の印象

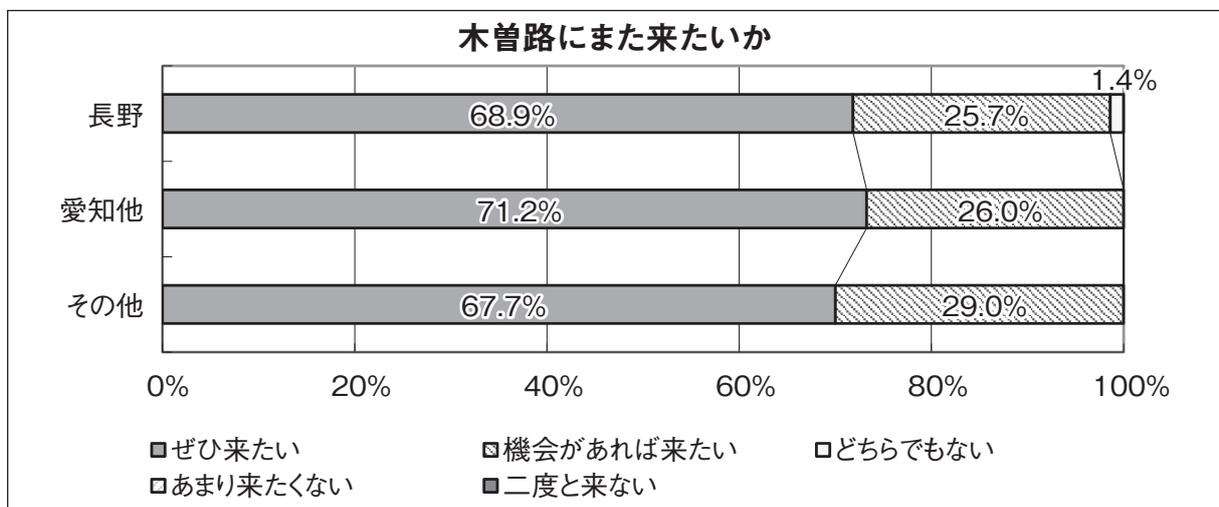


図22. 木曽路にまた来たいか

光客が長野県63.3%、愛知県他隣県45.5%、その他都道府県15.6%であったのに対して<sup>5)</sup>、今回調査

ではそれぞれ87.8%、82.7%、41.6%と増えているのが目立つ。特に愛知県他隣県とその他都道府県と

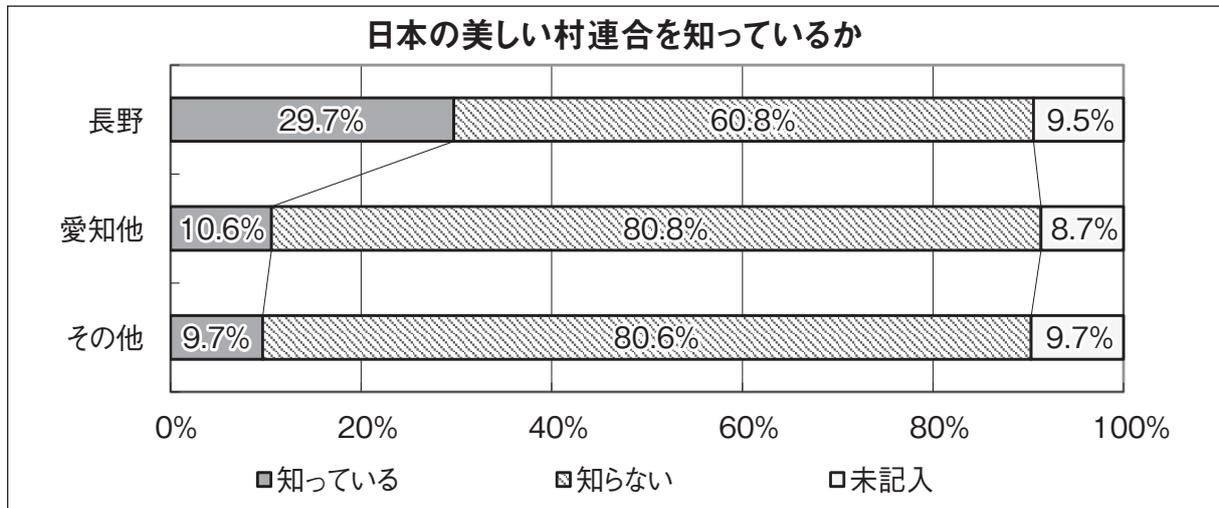


図23. 日本の美しい村連合の認知度

表10. 木曾町に対する意見

長野県	愛知県他隣県	その他都道府県
自然を残してほしい	道を広く(2)	道を広く(3)
開田高原に関してもっとPRしてほしい	いつまでも自然を大事にしてほしい	イワナの塩焼きが食べたい
木曾義仲をアピール	今の自然を維持してほしい	頑張る
交通整理	今のままでいてほしい	交通規制
国道19の整備	国道19号が走りやすくなった	交通の便をよくしてほしい
このままの自然	自然が気持ちいい	松本が好き
地元に住んでるので、買い物に不便	自然がきれいだよかった	山沿いルートの道路整備
単調すぎる	自然が素晴らしい	
抜け道がほしい	自然と高原がよい	
早く元気になってほしい	自然豊かでとても気持ちいです。	
	自然豊かで豊かな場所です	
	地元の野菜、イノシシを使った料理を食べてみたい	
	名古屋からの交通アクセスをしっかりとしてほしい	
	名古屋から日帰りにちょうど良い	
	バスの本数	
	花	
	道が楽しい	
	道がよくなった	
	土産屋さんをもっと増やしてほしい。	
	山道で下手な地元ドライバーが危ない	
	ゆっくりできる場所	

いう県外からの日帰り観光客増加が目立っている。前年との調査日の違いや経済状況の変化等も影響しているので明確には言うことはできないが、噴火による不安感などが日帰り観光の増加につながったとみてよいであろう。御嶽山の状態如何ではあるが、木曾地域の観光は先に見た高い満足度を活かすことができれば、噴火前の観光状況に復帰することは十分可能であろう。

なお、本報告書はアンケート調査に基づき、木曾地域における観光客の動向分析という共同研究作業の性格上、各著者の分担を明確に分別することはできないこととお断りしておく。

本調査に参加した学生は、総合経営学部総合経営学科4年生(当時)有井直也、高木鷹憲、高山孝太、竹下有彬、筒井歩実、中村勇太、西澤亮介、林幸範、丸山一輝、宮入啓一、山崎祐輔、依田章吾、3年生(当時)宇治親、海老原祐輔、木島信吾、澤野千帆、高柳唯、中谷洋介、原口太郎、交換留学生(当時)ムン スクジュン、ペ ミュンギユン、リュウデヨンの以上23名であった。この他に松商学園高等学校商業科の生徒十数名も参加した。

最後に、本アンケート調査の実施にあたり、木曾町役場観光交流課課長星野亮二様ほか木曾町役場の皆様、アンケート調査地点の関係者の皆様にご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

#### 文献

- 1) 鈴木尚通、葛西和廣、田中正敏、成耆政、佐藤進、「木曾町における観光客の動向に関する調査・研究 (I)」、『松本大学研究紀要』第10号、pp.119-143 (2012) .
- 2) 鈴木尚通、葛西和廣、田中正敏、成耆政、佐藤進、「木曾町における観光客の動向に関する調査・研究 (II)」、『松本大学研究紀要』第11号、pp.117-143 (2013) .
- 3) 葛西和廣、田中正敏、成耆政、佐藤進、鈴木尚通、「木曾町における観光客の動向に関する調査・研究 (III)」、『松本大学研究紀要』第12号、pp.135-157 (2014) .
- 4) 葛西和廣、成耆政、横山満、樋口剛志、鈴木尚通、「木曾町における観光客の動向に関する調査研究 (IV)」、『松本大学地域総合研究』第16号、pp.101-131 (2015) .
- 5) 前掲、葛西他、「木曾町における観光客の動向に関する調査・研究 (III)」、p.104. 図3.

アンケート調査 (木曾福島地区, 道の駅日義, 木曾市場, 開田高原を訪れた方対象)

□Q0 調査地点: 福島地区(①足湯, ②上の段, ③代官屋敷) ④道の駅日義 ⑤木曾市場 ⑥開田高原

□Q1 お住まい(ご自宅)はどちらですか

①都道府県 1)長野県 2)愛知県 3)岐阜県 4)静岡県 5)その他( ) 都・道・府・県  
②市町村 ( ) 市・町・村

□Q2 ①性別と②年齢を教えてください

①性別 1)男 2)女  
②年齢 1)20歳未満 2)20歳代 3)30歳代 4)40歳代 5)50歳代  
6)60歳代 7)70歳以上

□Q3 今回の旅行に関する次の質問にお答えいただけますか

①日程: 1)日帰り 2)1泊2日 3)2泊3日 4)3泊4日以上  
②今日は: 1)1日目 2)2日目 3)3日目 4)4日目以上  
③宿泊地: a) 1泊目 1)木曾町 2)その他[ ] b) 2泊目 1)木曾町 2)その他[ ]  
④観光コース: 1日目( ) → 2日目( )  
→ 3日目( ) → 4日目以降( )

□Q4 現在地(福島地区, 道の駅日義, 木曾市場, または場開田高原)で何時間ぐらい過ごされますか

1)30分未満 2)30分以上~1時間未満 3)1時間以上~2時間未満  
4)2時間以上~3時間未満 5)3時間以上~4時間未満 6)4時間以上

□Q5 どなたと旅行されていますか

1)単独 2)友人知人 3)家族(子連れ) 4)家族(大人のみ) 5)夫婦  
6)カップル(未婚) 7)職場団体 8)ツアー団体 9)その他( )

□Q6 主な交通手段は何ですか

1)マイカー 2)バイク 3)自転車 4)観光バス 5)鉄道(JR) 6)中央高速バス  
7)タクシー 8)その他( )

□Q7 今回の旅行でどのようなルートを使っていますか(予定を含む) (複数回答可)

①往路: 1)塩尻方面から 2)中津川方面 3)伊那方面 4)高山方面 5)その他( )  
②帰路: 1)塩尻方面へ 2)中津川方面 3)伊那方面 4)高山方面 5)その他( )

□Q8 現在地(木曾福島, 道の駅日義, 木曾市場, 開田高原)に今までに何回来たことがありますか

1)はじめて 2)2回目 3)3~5回目 4)6~9回目 5)10回以上

□Q9 木曾町を訪れた目的は何ですか (3つまで選んでください)

①自然の風景 ②ドライブ ③木曾馬牧場 ④温泉(足湯も含む) ⑤宿場ウォーク  
⑥トレッキング ⑦登山 ⑧溪流釣り ⑨キャンプ ⑩産地直売品・おみやげ  
⑪飲食( ) ⑫その他( )

□Q10 今回の旅行で訪れた(訪れる予定の)場所を教えてください (5つまで選んでください) .

1)木曾くらしの工芸館(道の駅ならかわ) 2)平沢漆器街 3)奈良井宿 4)鳥居峠  
5)やぶはら高原(こだまの森) 6)藪原宿 7)義仲館 8)福島関所  
9)山村代官屋敷 10)上の段の街並み 11)興禅寺 12)ふるさと体験館きそふくしま  
13)開田高原(九蔵峠展望台を含む) 14)木曾馬の里 15)やまゆり荘 16)木曾駒高原  
17)彩菜館 18)道の駅日義木曾駒高原 19)道の駅木曾福島(木曾市場) 20)道の駅三岳  
21)御嶽山 22)御岳ロープウェイ 23)御嶽神社 24)油木美林 25)寝覚の床  
26)赤沢自然休養林 27)道の駅大桑(木楽舎) 28)フォレスパ木曾 29)桃介橋 30)妻籠宿  
31)馬籠宿(藤村記念館) 32)その他( )

松商学園高等学校・松本大学 2015.10.03(土)

□Q11 どこで現在地(木曾福島, 道の駅日義, 開田高原等)の情報を集めましたか(3つまで)

- 1)ここに来てはじめて知った 2)口コミ 3)ガイドブック 4)観光パンフ 5)道沿いの看板  
6)新聞・チラシ 7)インターネット 8)テレビ・ラジオ 9)以前来た 10)その他( )

□Q12 今後この地域のどんな地域情報がほしいですか(3つまで選んでください)

- 1)温泉施設 2)自然にふれあえる場所 3)食事の楽しめる場所 4)季節のイベントや催し  
5)農産物直売所 6)地元民との交流 7)空き家(移住)情報 8)ドライブコース・道路  
9)その他( ) 10)必要ない 11)わからない

□Q13a 今回の旅行で(旅費, 宿泊費を除く)予算は1人当たり大体いくらですか

- 1)5千円未満 2)5千円~1万円未満 3)1万円~1万5千円未満  
4)1万5千円~2万円未満 5)2万円以上

□Q13b そのうち, お土産代はいくらくらいですか

- 1)2千円未満 2)2千円~4千円未満 3)4千円~6千円未満  
4)6千円~8千円未満 5)8千円~1万円未満 6)1万円以上

□Q14a お土産に何を買いましたか( )

□Q14b お土産にどんなものを探していますか( )

□Q14c おみやげの製造元(どこで製造されたか)を調べた上で買いますか

- 1)はい 2)いいえ 理由( )

□Q15a この地域で食べたもので, 何がおいしかったですか(5つまで選んでください)

- 1)蕎麦 2)すんきラーメン 3)五穀ラーメン 4)岩魚天井 5)すんきとん丼  
6)木曾牛コロケ 7)ますの押し寿司 8)エゴマの五平もち 9)雑穀もち・だんご 10)岩魚  
11)きのこ(鍋) 12)赤カブ漬け 13)山菜 14)とうもろこし 15)おんたけ白菜  
16)ブルーベリー 17)アイスクリーム 18)栗こもち 19)ほおば巻き 20)そばまんじゅう  
21)その他( )

□Q15b この地域で, ほかにどんなもの(どんな食材を使った料理)を食べてみたいですか?  
( )

□Q16 木曾路の印象はいかがですか

- 1)良かった 2)普通 3)良くなかった(期待はずれ) →理由( )

□Q17 また現在地(木曾福島, 道の駅日義, 木曾市場, または開田高原)に来たいと思いますか

- 1)ぜひ来たい 2)機会があれば来たい 3)どちらでもない 4)あまり来たくない  
5)二度と来ない

□Q18 「日本で最も美しい村連合」をご存じですか ( 1)知っている, 2)知らなかった )

□Q19 木曾町に対するご意見

ご協力ありがとうございました。